

学科到達目標

生産システム工学専攻では、先端工学技術の発展に対応し得る知識を持った独創的で解析力に優れた技術者を育成するため、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、修了を認定します。

１．高度な物理学・化学の知識を習得し、自然現象が理解できる。また社会の仕組みや実務問題を理解できる。総合的能力を有する開発型技術者・研究者に必要な能力を養う。

２．情報処理技術を習得し、情報技術を駆使できる。

３．自分の専門分野だけでなく他分野も理解できる幅広い知識を持ち、具体的に”もの”をデザインできる。

４．工学に関する基礎的な技術や知識、さらに専門分野に関する応用的・先端的技術・知識を融合し、問題を解決し具体的な”もの”を実現できる。

５．高度な数学や専門分野の応用的・先端技術・知識に加えて、専門分野以外の実験技術を習得し、事象・現象を総合的に捉え解析できる能力を身に付けている。

６．技術者としての社会的責任や、技術が自然や社会に与える影響を理解し、幅広い見地の下で物事を考慮し、適切な判断ができる。

７．日本語で研究発表できるプレゼンテーション能力を身に付けている。

【実務経験のある教員による授業科目一覧】

学科/専攻	開講年次	共通・学科	専門・一般	科目名	単位数	実務経験のある教員名
生産システム工学専攻	専1年	共通	一般	技術者倫理	2	藤田活秀
生産システム工学専攻	専1年	共通	専門	MOT入門	2	中村英人
生産システム工学専攻	専2年	共通	専門	MOT入門	2	中村英人
生産システム工学専攻	専2年	学科	専門	ネットワーク技術特論	2	武藤義彦
生産システム工学専攻	専2年	学科	専門	トライボロジー	2	後藤実
生産システム工学専攻	専2年	学科	専門	エネルギープロセス工学	2	野本直樹
生産システム工学専攻	専2年	学科	専門	電子回路設計解析学	2	南野郁夫
生産システム工学専攻	専2年	学科	専門	光物性基礎論	2	成島和男

科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数								担当教員	履修上の区分
						専1年				専2年					
						前		後		前		後			
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
一般	必修	日本文化	63001	学修単位	2				4					赤迫 照子	
一般	必修	実用英語	63002	学修単位	2	4								岡田 美鈴	
一般	必修	数学特論	63003	学修単位	2			4						加藤 裕基	
一般	必修	技術者倫理	63004	学修単位	2		4							藤田 活秀	
専門	必修	自然科学特論	63005	学修単位	2				4					木村 大自	
専門	必修	情報処理	63006	学修単位	2			4						三谷 芳弘	
専門	必修	環境科学	63007	学修単位	2	2								樋口 隆哉,杉本 憲司	
専門	必修	MOT入門	63008	学修単位	2				4					中村 英人	
専門	選択	解析学概論	63009	学修単位	2		4							後藤 実三浦 敏	
専門	選択	電気工学特論	63010	学修単位	2				4					岡本 昌幸	
専門	選択	専門英語	63011	学修単位	2			4						専攻科各教員	
専門	選択	経営管理工学	63012	学修単位	2			2						挾間 雅義	
専門	必修	工学特論 I	63013	学修単位	2	2								一田 啓介,山口 隆正,成島 和男,長峯 祐子,野本直樹,岡本昌幸	

専門	必修	工学特論Ⅱ	63014	学修単位	2			2					徳永 敦 士,成男 島,長峯 祐,子 勝,袋 野,弥 本,樹 岡,本 昌,幸	
専門	必修	エンジニアリングデザインⅠ	63015	学修単位	1	2							一田 啓 介,岡昌幸 本,久保良輔 田	
専門	必修	エンジニアリングデザインⅡ	63016	学修単位	2	1		1					一田 啓 介,岡昌幸 本,久保良輔 田	
専門	必修	工学複合実験	63017	学修単位	1	1							藤田 活 崎,森也 ,篠田 豊,徳士 永,敦 春,山 和,男 仙,波 伸,也 三,澤 秀,明 吉,田 雅,史 三,谷 芳,弘 岡,本 昌,幸	
専門	必修	特別研究Ⅰ	63018	学修単位	10	5		5					岡本 昌 幸,専攻科各 教員	
専門	選択	インターンシップ	63019	学修単位	3	1.5		1.5					岡本 昌 幸,専攻科各 教員	
専門	必修	特別研究Ⅱ	63020	学修単位	10					5		5	岡本 昌 幸,専攻科各 教員	
専門	選択	トライボロジー応用	63021	学修単位	2					4			後藤 実	
専門	選択	弾塑性力学	63022	学修単位	2							4	篠田 豊	
専門	選択	熱流体工学	63023	学修単位	2							4	徳永 敦 士	
専門	選択	システム制御工学	63024	学修単位	2						4		一田 啓 介	
専門	選択	半導体電子物性	63025	学修単位	2					4			碓 智徳	
専門	選択	パワーエレクトロニクス特論	63026	学修単位	2						4		池田 風 花	
専門	選択	電力工学	63027	学修単位	2							4	吉田 雅 史	
専門	選択	光物性基礎論	63028	学修単位	2						4		成島 和 男	
専門	選択	システム工学	63029	学修単位	2						4		長峯 祐 子	
専門	選択	符号理論	63030	学修単位	2							4	田辺 誠	
専門	選択	知的情報処理	63031	学修単位	2					4			久保田 良輔	
専門	選択	画像処理	63032	学修単位	2						4		三谷 芳 弘	
専門	選択	情報ネットワーク特論	63033	学修単位	2							4	伊藤 勉	
専門	選択	インターンシップ	63034	学修単位	3					1.5		1.5	岡本 昌 幸,専攻科各 教員	

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	日本文化	
科目基礎情報							
科目番号	63001			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	4th-Q			週時間数	4		
教科書/教材	プリントを配付する。参考文献は適宜指示する。						
担当教員	赤迫 照子						
到達目標							
①日本文化に興味・関心を抱き、理解を深めることができる。 ②学び、考察したことを論理的な文章で表現できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1		日本文化への興味・関心を広く持ち、様々な角度から文化的事象を考察できる。	日本文化への興味・関心をもち、自分なりの角度から文化的事象を考察できる。	自分なりの角度から文化的事象を考察できる。	文化的事象を考察できない。		
評価項目2		理解したこと・考察したことを論理的な文章で説明できる。	理解したこと・考察したことを文章で説明できる。	理解したことを文章で説明できる。	授業で扱った内容を文章で説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	日本文化を学びながら、論理的な文章を作成する力を養う科目である。主に文学・語学・歴史からの視点を切り口に、日本文化の諸相を概観する。理解したこと・考察したことは文章にまとめて報告する。 「日本文化とは何か」「文化を学ぶとは何か」を考えるを通して、文化の多様性を尊重する姿勢を身につけてほしい。						
授業の進め方・方法	①文献・教材を読解し、日本文化への理解を深める。 ②理解したこと・考察したことを他者に説明できるように、文章を作成する。 ③論理的な文章を作成するために、推敲・添削の作業をする。 なお、この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習として「演習課題」と「レポート」を課す。						
注意点	・小テストは日本語に関する問題を出題する。 ・考察を重ねた成果として、レポートを重視する。なお、小論文は「レポート」として扱う。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	4thQ	9週	ガイダンス 文学概論①古代		『古事記』『日本書紀』『万葉集』を読み、古代文化の基礎知識を身につける。 レポートを作成する。		
		10週	文学概論②中古 文学概論③中世		『源氏物語』を読み、平安文化の基礎知識を身につける。 『方丈記』を読み、中世文化の基礎知識を身につける。 レポートを作成する。		
		11週	文献学① 文献学②		和本の装丁の基礎知識を身につける。 書写・印刷の歴史を理解する。 本文批評・注釈・解釈に取り組み、分析・考察したことをレポートにまとめ、発表する。		
		12週	批評を読む① 批評を読む②		日本文化に関する批評・評論を読む。 小論文を作成する。		
		13週	文学概論④近世 文学概論⑤近代		江戸の文学作品を読み、近世文化の基礎知識を身につける。 小説を読み、近代文化の基礎知識を身につける。 小論文を作成する。		
		14週	文学概論⑥現代 批評を読む③		小説・批評を読み、現代文化の基礎知識を身につける。 小論文を作成する。		
		15週	定期試験		日本文化のありかたを説明できる。		
		16週	試験返却・解説 授業のまとめ		学修の総まとめができる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	レポート	発表	小テスト	合計		
総合評価割合	10	70	10	10	100		
知識の基本的な理解	10	20	5	10	45		
思考・推論・創造への適用	0	30	5	0	35		
汎用的技能【論理的思考力】	0	20	0	0	20		

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	実用英語		
科目基礎情報								
科目番号	63002			科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	生産システム工学専攻			対象学年	専1			
開設期	1st-Q			週時間数	4			
教科書/教材	Academic Writing Skills 1 Student's Book Cambridge University Press							
担当教員	岡田 美鈴							
到達目標								
アカデミックライティングの手法を学び、プレゼンテーションで使いながら、言語知識の定着と総合的英語運用能力向上を目標とします。 (1) 基礎知識 (文法や語彙) の定着を図り、以下の英語運用能力 (Reading, Writing, Listening, Speaking) の向上を目指す。 (2) 効果的で印象的なプレゼンテーションを行うために必要な英語表現を習得する。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)				
評価項目1	アカデミックライティングの手法を学び、ライティング活動の中で多様な文を用いて表現することができる。	アカデミックライティングの手法を学び、ライティング活動の中で多様な文を用いて概ね表現することができる。	アカデミックライティングの手法を学び、ライティング活動の中で多様な文を用いてやや表現することができる。	アカデミックライティングの手法を学び、ライティング活動の中で多様な文を用いて表現することができない。				
評価項目2	アカデミックライティングの手法を活用し、効果的なプレゼンテーションができる。	アカデミックライティングの手法を活用し、効果的なプレゼンテーションが概ねできる。	アカデミックライティングの手法を活用し、効果的なプレゼンテーションがややできる。	アカデミックライティングの手法を活用し、効果的なプレゼンテーションができない。				
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	アカデミックライティングの手法を学びながら言語知識の定着を図り、総合的な英語運用能力、Reading, Writing, Listening, Speakingについての能力向上を図ります。また、この授業をきっかけとして英語学習やTOEIC学習にも目を向け、公開試験や I P 試験を積極的に受験してほしいと思います。							
授業の進め方・方法	【授業】テストの範囲や進め方は初回に説明をするので、準備をして真剣に取り組みましょう。授業での活動を評価するので、出席に気をつけましょう。 【評価】達成度評価 (%) について、テキストの構成に合わせてUnit 1での活動を20%、Unit 2での活動を25%、Unit 3での活動を20%、Unit 4での活動を35%とします。また、この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習として、各回でレポートを提出します。							
注意点	必ず英和辞典とノート (またはルーズリーフ) を持ってきてきましょう。積極的に授業に臨む姿勢を評価します。間違いを恐れずにチャレンジしてください。							
授業の属性・履修上の区分								
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
		週	授業内容		週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	導入・Unit 1 (Part 1, 2)		Guidance How to structure a paragraph - the basic building block for essays.			
		2週	Unit 1 (Part 3, 4)		How to structure a paragraph - the basic building block for essays.			
		3週	Unit 2 (Part 1, 2)		From writing paragraphs to composing longer pieces of work (essays).			
		4週	Unit 2 (Part 3・Presentation)		From writing paragraphs to composing longer pieces of work (essays). You can give a presentation on a certain theme.			
		5週	Unit 3 (Part 1, 2)		How to paraphrase and summarize, and use information from outside sources.			
		6週	Unit 4 (Part 1, 2)		How to write a research essay, with particular focus on presenting opinions and supporting them with evidence.			
		7週	Unit 4 (Part 3)		How to write a research essay, with particular focus on presenting opinions and supporting them with evidence.			
		8週	Round-Table Discussion		You can have a round-table discussion about SDGs.			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週	
評価割合								
	Unit 1		Unit 2		Unit 3		Unt 4	合計
総合評価割合	20		25		20		35	100
基礎的能力	20		25		20		35	100
専門的能力	0		0		0		0	0

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	数学特論			
科目基礎情報									
科目番号		63003		科目区分		一般 / 必修			
授業形態		講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2			
開設学科		生産システム工学専攻		対象学年		専1			
開設期		3rd-Q		週時間数		4			
教科書/教材		岩波書店「代数系入門」(著:松坂和夫)							
担当教員		加藤 裕基							
到達目標									
(1) 群論の基礎を理解できる (2) 環論の基礎を理解できる。									
ルーブリック									
		理想的な到達レベルの目安 (優)		標準的な到達レベルの目安 (良)		最低限な到達レベルの目安 (可)		未到達レベルの目安 (不可)	
評価項目1		群論の基礎が理解でき、説明することができる。また、問題を正しく解くことができる。		群論の基礎が理解でき、説明することができる。また、問題を大きく間違えることなく解くことができる。		群論の基礎が理解でき、説明することができる。		群論の基礎が理解できない。そして説明することができない。	
評価項目2		環論の基礎が理解でき、説明することができる。また、問題を正しく解くことができる。		環論の基礎が理解でき、説明することができる。また、問題を大きく間違えることなく解くことができる。		環論の基礎が理解でき、説明することができる。		環論の基礎が理解できない。そして説明することができない。	
学科の到達目標項目との関係									
教育方法等									
概要		群論と環論の初歩を講義する。前半では群論、後半では環論を講義する。							
授業の進め方・方法		抽象的な事柄を学ぶときに心がけたいのは、自ら具体的な計算を行うことを欠かさないことである。そのために、授業内では具体例を多く取り扱う予定である。また、演習を課し、宿題も課すであろう。これらの課題をしっかりとこなすことで正しい数学的な概念を身に着ける。関連する数学的な話題についても触れる予定である。							
注意点		授業時はノートをとることを推奨する。理解できない箇所は、まずは自分で考えること。そして、図書館を利用して文献を調べること。							
授業の属性・履修上の区分									
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業			
授業計画									
		週	授業内容			週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週							
		2週							
		3週							
		4週							
		5週							
		6週							
		7週							
		8週							
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標									
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週	
評価割合									
			定期試験		レポート		合計		
総合評価割合			70		30		100		
知識の基本的な理解【知識・記憶、理解レベル】			30		10		40		
思考・推論・創造への適用力【適用、分析レベル】			20		10		30		
汎用的技能【論理的思考力】			20		10		30		

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	技術者倫理		
科目基礎情報								
科目番号	63004			科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	生産システム工学専攻			対象学年	専1			
開設期	2nd-Q			週時間数	4			
教科書/教材	以下の教科書に基づいたレジュメを配布する。「JABEE対応 技術者倫理」小出泰士著（丸善株式会社）							
担当教員	藤田 活秀							
到達目標								
①地球環境問題が説明できる、②技術者の社会的責任を説明できる、③企業不祥事の事例を説明できる、ことを到達目標とする。								
ルーブリック								
		理想的な到達レベルの目安 （優）	標準的な到達レベルの目安 （良）	最低限の到達レベルの目安 （可）	未到達レベルの目安（不可）			
評価項目1		地球環境問題に関する国際的取り組みについて説明できる。	地球環境問題が説明できる。	地球温暖化問題が説明できる。	地球温暖化問題が説明できない。			
評価項目2		生命倫理と技術者の社会的責任と企業の社会的責任を説明できる。	技術者の社会的責任と企業の社会的責任を説明できる。	企業の社会的責任を説明できる。	企業の社会的責任を説明できない。			
評価項目3		企業不祥事の事例を 3 件、説明できる。	企業不祥事の事例を 2 件、説明できる。 企業不祥事の事例を説ける	企業不祥事の事例を説明できる。	企業不祥事の事例を説明できない。			
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	※実務との関係 この科目は企業で粉砕機器および運搬機器の高性能化の開発に従事していた教員が、その経験を生かし、地球環境問題に関する基礎知識、人類の持続可能な発展の条件、また企業の社会的責任をふまえて、企業に勤務する技術者の倫理について講義形式で授業を行うものである。							
授業の進め方・方法	この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習として自学自習課題を実施します。授業は講義形式で行うが、適宜グループワークや議論を行う。講義中に教員から様々な知識や事例が提供される。それをもとに、単に専門的な観点からだけでなく、消費者や政府あるいは環境や人権といった様々な観点・立場から考える力を身につける訓練を求めるものである。							
注意点	技術者倫理は答えの無い学問であり、各自が答えを見つけ出す必要がある。技術者倫理が問題となる過去の事例を学ぶとともに、よりよい解を見つけ出すための思考方法を身につけてほしい。							
授業の属性・履修上の区分								
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
		週	授業内容		週ごとの到達目標			
前期	2ndQ	9週	技術者倫理の要求される背景		今なぜ技術者倫理が問われているのかを考えることができる。			
		10週	事例研究 1		チャレンジャー号爆発事故の背景と技術者の対応を考えることができる。			
		11週	事例研究 2		三菱自動車クレーム隠し事件について考えることができる。			
		12週	事例研究 3		福島原発事故について考えることができる。			
		13週	地球環境問題		地球環境問題への国際的な取組について説明し、考察することができる。			
		14週	知的財産		知的財産について説明し、考察することができる。			
		15週	製造物責任		技術者が負う製造物に関する責任とは何かを説明し、考察することができる。			
		16週	内部告発		内部告発のジレンマや方法について説明し、事例に対して考察することができる。			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合								
	レポート	事前・事後学習	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100	
知識の基本的な理解	20	20	0	0	0	0	40	
思考・推論・創造への適用力	20	0	0	0	0	0	20	
汎用的技能	0	20	0	0	0	0	20	
態度・志向性(人間力)	20	0	0	0	0	0	20	

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	自然科学特論	
科目基礎情報							
科目番号	63005			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	4th-Q			週時間数	4		
教科書/教材	本科で使用した物理の教科書等						
担当教員	木村 大自						
到達目標							
1 特殊相対性理論と量子力学の基礎を理解し、説明することができる。 2 超伝導現象や超伝導の原理を理解し、説明することができる。 3 物理の学習を通して、科学的な思考力や探究心、学習態度を高めることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)		
評価項目1		特殊相対性理論と量子論の基礎を理解し、適切な具体例を挙げて説明することができる。また、応用的な問題について計算することができる。	特殊相対性理論と量子論の基礎を理解し、説明することができる。また、授業で扱う問題について計算することができる。	特殊相対性理論と量子論の基礎を理解し、おおまかな説明をすることができる。また、簡単な問題について計算することができる。	特殊相対性理論と量子論の基礎を理解することができず、簡単な問題を計算することもできない。		
評価項目2		超伝導現象や超伝導の原理を理解し、適切な具体例を挙げて説明することができる。また、応用的な問題について計算することができる。	超伝導現象や超伝導の原理を理解し、説明することができる。また、授業で扱う問題について計算することができる。	超伝導現象や超伝導の原理を理解し、おおまかな説明をすることができる。また、簡単な問題について計算することができる。	超伝導現象や超伝導の原理を理解することができず、簡単な問題を計算することもできない。		
評価項目3		物理の学習を通して、科学的な思考力や探究心、学習態度を高め、他の学生に良い影響を与えることができる。	物理の学習を通して、科学的な思考力や探究心、学習態度を高めることができる。	物理の学習を通して、科学的な思考力や探究心、学習態度をやや高めることができる。	物理の学習を通して、科学的な思考力や探究心、学習態度を高めることができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	特殊相対性理論と量子力学の基本的な事柄を学びます。これらは日常生活や本科の物理とは異なる面白い現象もあります。少し複雑な計算もできますが、本科の数学の知識があれば大丈夫です。						
授業の進め方・方法	講義形式です。演習時間は、学生同士の教え合いや学び合いを奨励しています。						
注意点	計算や問題は、自分で解いてみてください。原理や法則は、意味を考え納得しながら学習を進めてください。ある程度理解してから、友達と議論すれば、理解を深めることができますと思います。なお、学期内に成績を再評価する場合があります。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	4thQ	9週	ガイダンス、ガリレイ変換とローレンツ変換。時間の遅れ、ローレンツ収縮。		ガリレイ変換とローレンツ変換について説明できる。時間の遅れ、ローレンツ収縮について説明できる。		
		10週	エネルギーと質量の関係、光のドップラー効果。光のエネルギー。		エネルギーと質量の関係、光のドップラー効果について説明できる。光のエネルギーについて説明できる。		
		11週	光電効果、コンプトン効果。電子の波動性、不確定性原理。		光電効果、コンプトン効果について説明できる。電子の波動性、不確定性原理について説明できる。		
		12週	中間試験。中間試験の返却と解説。		中間試験の8割以上を解くことができる。中間試験の解説を聞き、間違えたところを正しく解くことができる。		
		13週	シュレディンガー方程式。井戸型ポテンシャル（前半）。		シュレディンガー方程式について説明できる。井戸型ポテンシャル（前半）について説明できる。		
		14週	井戸型ポテンシャル（後半）。超伝導現象。		井戸型ポテンシャル（後半）について説明できる。超伝導現象について説明できる。		
		15週	BCS理論、永久電流。マイスナー効果。		BCS理論、永久電流について説明できる。マイスナー効果について説明できる。		
		16週	定期試験。定期試験の返却と解説。		定期試験の8割以上を解くことができる。定期試験の解説を聞き、間違えたところを理解できる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	中間試験		定期試験		課題	合計	
総合評価割合	40		40		20	100	
知識の基本的な理解	30		30		20	80	
思考・推論・創造性	10		10		0	20	
態度・志向性(人間力)	0		0		0	0	

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	情報処理	
科目基礎情報							
科目番号		63006		科目区分	専門 / 必修		
授業形態		講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科		生産システム工学専攻		対象学年	専1		
開設期		3rd-Q		週時間数	4		
教科書/教材		『「ゼロからはじめるデータサイエンス入門 R・Python一挙両得」辻真吾・矢吹太郎(講談社)』, プリント					
担当教員		三谷 芳弘					
到達目標							
情報処理の一つであるデータサイエンスを扱う。データサイエンスでは、解決すべき問題を明らかにし、必要なデータを作成・収集・検討し、データ解析の手法を用いて実際にデータを分析し、その分析結果を解釈し、問題解決にあたる。本授業では、データサイエンスにおけるデータ解析手法の基本的な考え方を習得する。さらにデータに対して実際にデータ解析手法を用いることができる。 本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) データフレーム・類似度(非類似度)・基本統計量・データの可視化について理解できる。 (2) 乱数・統計的推測・回帰分析について理解できる。 (3) 機械学習 教師あり学習・教師なし学習について理解できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	最低限の到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1		類似度・基本統計量・データの可視化を説明できる。	類似度・基本統計量を説明できる。	データフレームについて説明できる。	データフレームの説明ができない。		
評価項目2		統計的推測・回帰分析を説明できる。	統計的推測を説明できる。	乱数について説明できる。	乱数の説明ができない。		
評価項目3		教師あり学習・教師なし学習を説明できる。	教師あり学習を説明できる。	機械学習について説明できる。	機械学習の説明ができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	情報処理の一つであるデータサイエンスを理解し、データ解析手法の基本的な考え方を習得する。						
授業の進め方・方法	この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習として小テスト及びレポートを実施する。本講義は情報処理室において実施する。情報処理室の利用についてはマナーを守ること。教科書及び配布プリントに基づいて授業を進める。						
注意点	データサイエンスに関する小テストとしてプログラム課題を課す。また、データサイエンスに関する応用のレポートとしてプログラム課題を課す。提出期限は厳守すること。学期内に成績を再評価する場合がある。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	1回目：データサイエンス(1), ガイダンス・概要 2回目：データサイエンス(2)		・シラバスから学習の意義、授業の進め方、評価方法を理解できる。データフレーム、データの読み込み・書き込みを理解できる。 ・類似度(非類似度)を理解できる		
		2週	3回目：データサイエンス(3) 4回目：データサイエンス(4)		・基本統計量を理解できる ・データ可視化を理解できる		
		3週	5回目：データサイエンス(5) 6回目：データサイエンス(6)		・乱数を理解できる ・統計的推測を理解できる		
		4週	7回目：データサイエンス(7) 8回目：データサイエンス(8)		・回帰分析(1)を理解できる ・回帰分析(2)を理解できる		
		5週	9回目：データサイエンス(9) 10回目：データサイエンス(10)		・機械学習 教師あり学習(1)を理解できる ・機械学習 教師あり学習(2)を理解できる		
		6週	11回目：データサイエンス(11) 12回目：データサイエンス(12)		・機械学習 教師なし学習(1)を理解できる ・機械学習 教師なし学習(2)を理解できる		
		7週	13回目：データサイエンスの応用(1) 14回目：データサイエンスの応用(2)		・与えられた課題に取り組み、レポートとしてまとめることができる。 ・与えられた課題に取り組み、レポートとしてまとめることができる。		
		8週	15回目：定期試験 16回目：試験返却		・試験問題の解説を通じて間違った箇所を理解できる。 ・また、これまでの学習事項のまとめを行う。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	期末試験		レポート		小テスト	合計	
総合評価割合	40		40		20	100	
知識の基本的な理解	20		10		10	40	
思考・推論・創造への適用力【適用、分析レベル】	10		10		5	25	
汎用的技能【論理的思考力】	10		10		5	25	
態度・志向性（人間力）	0		0		0	0	
総合的な学習経験と創造的思考力	0		10		0	10	

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	環境科学	
科目基礎情報							
科目番号		63007		科目区分		専門 / 必修	
授業形態		講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科		生産システム工学専攻		対象学年		専1	
開設期		前期		週時間数		2	
教科書/教材		教科書は使用しない。資料を配付する。					
担当教員		樋口 隆哉,杉本 憲司					
到達目標							
(1)日本国内、地球規模で起こっている環境問題について説明できる。 (2)環境問題について科学的・政治的背景を説明できる。 (3)環境汚染の原因とその改善技術について説明できる。 (4)グループで環境問題を取り上げ、問題点、解決方法についてまとめてプレゼンテーションできる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1		日本国内、地球規模で起こっている環境問題について講義で説明した事例をすべて説明できる。	日本国内、地球規模で起こっている環境問題について講義で説明した事例をそれぞれ1つ説明できる。	日本国内、地球規模で起こっている環境問題について講義で説明した事例をどちらか1つ説明できる。	日本国内、地球規模で起こっている環境問題について講義で説明した事例を全く説明できない。		
評価項目2		講義で取り上げた環境問題について科学的・政治的背景をすべて説明できる。	講義で取り上げた環境問題について科学的・政治的背景を2つ事例を挙げて説明できる。	講義で取り上げた環境問題について科学的・政治的背景を1つ事例を挙げて説明できる。	講義で取り上げた環境問題について科学的・政治的背景を全く説明できない。		
評価項目3		授業で取り上げた環境汚染の原因とその改善技術についてすべて説明できる。	授業で取り上げた環境汚染の原因とその改善技術について2つ説明できる。	授業で取り上げた環境汚染の原因とその改善技術について1つ説明できる。	授業で取り上げた環境汚染の原因とその改善技術について全く説明できない。		
評価項目4		グループで環境問題を取り上げ、問題点、解決方法について独自にまとめてプレゼンテーションできる。	グループで環境問題を取り上げ、問題点、解決方法についてまとめてプレゼンテーションできる。	グループで環境問題を取り上げ、問題点、解決方法について助言を受けながらまとめてプレゼンテーションできる。	グループで環境問題を取り上げ、問題点、解決方法についてまとめてプレゼンテーションすることが全くできない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	日本国内および地球規模の環境問題を取り上げて、環境問題の科学的側面だけではなく、政治的背景などについても講義する。また、環境汚染の改善技術についても講義し、さらに環境問題についてグループ討論とプレゼンテーションを行う。						
授業の進め方・方法	資料を配付し、主にスライドを使いながら講義する。毎回授業の最後にレポートを課す。この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習としてレポートを実施します。						
注意点	授業内容について、自ら学習を進めてください。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	太陽系と地球環境 地球環境問題		太陽系や地球環境の構成要素について理解し、説明できるようにする。 地球環境問題、特に地球温暖化と気候変動について理解し、説明できるようにする。		
		2週	人間と生物の共生 人口問題と食糧問題		生態系の構成や機能、人間と生物の共生について理解し、説明できるようにする。 世界の人口問題と食糧問題について理解し、説明できるようにする。		
		3週	大気汚染問題 大気浄化技術		大気汚染の原因物質や影響について理解し、説明できるようにする。 大気の浄化技術について理解し、説明できるようにする。		
		4週	水環境問題 上水道と下水道		水の特性や水循環、水環境問題について理解し、説明できるようにする。 上水道と下水道の役割や仕組みについて理解し、説明できるようにする。		
		5週	化学物質のリスク 化学物質の管理		化学物質が人間の健康に与えるリスクについて理解し、説明できるようにする。 産業活動における化学物質の管理体制について理解し、説明できるようにする。		
		6週	循環型社会 環境問題の歴史		廃棄物処理の現状と循環型社会構築への取り組みについて理解し、説明できるようにする。 環境問題の歴史と解決に向けての取り組みについて理解し、説明できるようにする。		
		7週	討論 1 討論 2		環境問題を取り上げて討論を行い、問題点や解決方法についてまとめることができるようにする。 環境問題を取り上げて討論を行った内容をプレゼンテーションできるようにする。		
		8週	定期試験の解答解説		期末試験の解説を通じて、間違ったところを理解できるようにする。		

	2ndQ	9週	化学物質のリスク	化学物質が人間の健康に与えるリスクについて理解し、説明できるようにする。
		10週	化学物質の管理	産業活動における化学物質の管理体制について理解し、説明できるようにする。
		11週	循環型社会	廃棄物処理の現状と循環型社会構築への取り組みについて理解し、説明できるようにする。
		12週	環境問題の歴史	環境問題の歴史と解決に向けての取り組みについて理解し、説明できるようにする。
		13週	討論 1	環境問題を取り上げて討論を行い、問題点や解決方法についてまとめることができるようにする。
		14週	討論 2	環境問題を取り上げて討論を行った内容をプレゼンテーションできるようにする。
		15週	期末試験	
		16週	期末試験の解答解説	期末試験の解説を通じて、間違ったところを理解できるようにする。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	レポート	合計
総合評価割合	70	15	15	100
知識の基本的な理解【知識・記憶、理解レベル】	30	0	0	30
思考・推論・創造への適用力【適用、分析レベル】	20	0	5	25
汎用的技能	10	5	5	20
態度・志向性(人間力)	0	5	0	5
総合的な学習経験と創造的思考力	10	5	5	20

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	M O T 入門	
科目基礎情報							
科目番号	63008			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	4th-Q			週時間数	4		
教科書/教材	講義資料をPDFにて配布する（各自でダウンロード）。						
担当教員	中村 英人						
到達目標							
①MOT（技術経営）の用語や定義、基本的なフレームワークを、説明できる。 ②ビジネス・エコシステム及びプラットフォームビジネスについて、説明できる。 ③MOT（技術経営）の事例を見つけ出し、分析・考察することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)			
評価項目1	ケーススタディ企業におけるMOT（技術経営）の特徴に対して、独自の考察を示すことができる。	ケーススタディ企業におけるMOT（技術経営）の特徴を、MOTの用語や定義、基本的なフレームワークを用いて、説明できる。	MOT（技術経営）の用語や定義、基本的なフレームワークを、説明できる。	MOT（技術経営）の用語や定義、基本的なフレームワークを、説明できない。			
評価項目2	ケーススタディ企業の特徴を、ビジネス・エコシステム及びプラットフォームビジネスの視点で捉え、独自の考察を示すことができる。	ケーススタディ企業の特徴を、ビジネス・エコシステム及びプラットフォームビジネスの視点から説明できる。	ビジネス・エコシステム及びプラットフォームビジネスに関連する用語ついて、説明できる。	ビジネス・エコシステム及びプラットフォームビジネスに関連する用語ついて、説明できない。			
評価項目3	MOT（技術経営）に関する事例を自分で見つけ情報収集を行い、分析することができる。	MOT（技術経営）に関する事例を自分で見つけ情報収集を行い、分析することができる。	MOT（技術経営）に関する事例を自分で見つけ、情報収集を行うことができる。	MOT（技術経営）の事例と、その他の事例の判別がつかない。			
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	MOT（技術経営）について既知の知識を整理するとともに、新たな知識の獲得に努めます。また、他の学問領域との関連性を理解し、具体的な事例について、技術と経営の2つの視点から考察できるようにします。 ※実務との関係 この科目は、企業及び地方公共団体において情報システム構築や経済分析を担当した経験を持ち、さらに、MOT（技術経営修士（専門職））の学位を有する教員が、その実務経験と知識を活かして、企業や官公庁の技術マネジメントの歴史や現状、課題等の事例を踏まえた技術経営論について、講義形式で授業を行うものである。						
授業の進め方・方法	教科書は用いず、適宜講義資料を配付します。 この科目は学修単位のため、事前・事後学習として、ケーススタディのディスカッションの前提となる資料の読み込み、確認レポートを実施します。						
注意点	講義ではケーススタディによるディスカッションを行います。積極的な参加を求めます。 受講者の人数により、事例研究の内容の見直しを行う場合があります。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	4thQ	9週	1.MOTをめぐる経緯 2.イノベーション	1.MOT（技術経営）の意義、成立の経緯について説明できる。 2.技術の成果を商品化する過程及び3つの関門について説明できる。			
		10週	3.オープン・イノベーション 4.ビジネス・エコシステム	3.オープン・イノベーションの概念・枠組み・メリット・デメリットについて説明できる。 4.ビジネス・エコシステムの概念・枠組みについて説明できる。			
		11週	5.プラットフォーム・ビジネス 6.事例研究①:グローバル化と日本企業	5.プラットフォーム企業概念の枠組み、成長の要因について説明できる。 6.市場のグローバル化及び生産のグローバル化について説明できる。			
		12週	7.事例研究②:コンピュータ産業 8.事例研究③:半導体産業	7.コンピュータ産業の進展を、技術のSカーブ分析を用いて説明できる。 8.半導体産業の歴史について説明できる。			
		13週	9.事例研究④:半導体産業 10.事例研究⑤:文房具業界（マスキングテープ）	9.わが国の半導体産業が衰退した要因を考察し、説明できる。 10.事例企業における、ユーザー・イノベーションを説明できる。			
		14週	11.事例研究⑥:時計産業 12.事例研究⑦:ゲーム産業	11.事例企業における、マーケティングの特徴を説明できる。 12.事例企業における、マーケティングの特徴を説明できる。			
		15週	13.事例研究⑧:医療機器産業（X線画像診断システム） 14.政府の技術政策	13.富士フィルムの事例を通じて、同社の競争優位について説明できる。 14.政府の技術政策について説明できる。			
		16週	15.論文研究① 16.論文研究②	社会経済におけるMOTに関連した事例を自ら探し、これまでに学習した内容を踏まえて、批判的に検証を行う。			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		レポート	発表	合計	
総合評価割合		50	50	100	
知識の基本的な理解【知識・記憶、理解レベル】		20	20	40	
思考・推論・創造への適用力【適用、分析レベル】		20	20	40	
汎用的技能【論理的思考力】		0	0	0	
態度・志向性（人間力）		0	0	0	
総合的な学習経験と創造的思考力		10	10	20	

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	電気工学特論	
科目基礎情報							
科目番号	63010			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	4th-Q			週時間数	4		
教科書/教材							
担当教員	岡本 昌幸						
到達目標							
1.静電界における各種の法則を理解し、実践的な問題を解くことができる。 2.静磁界における各種の法則を理解し、実践的な問題を解くことができる。 3.交流理論を理解し、交流回路に関する実践的な問題を解くことができる。 4.電気回路における過渡現象を理解し、実践的な問題を解くことができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)		
評価項目1		静電界における各種の法則を理解し、実践的な問題を8割以上解くことができる。	静電界における各種の法則を理解し、実践的な問題を7割程度解くことができる。	静電界における各種の法則を理解し、説明できる。	静電界における各種の法則が理解できない。		
評価項目2		静磁界における各種の法則を理解し、実践的な問題を8割以上解くことができる。	静磁界における各種の法則を理解し、実践的な問題を7割程度解くことができる。	静磁界における各種の法則を理解し、説明できる。	静磁界における各種の法則が理解できない。		
評価項目3		交流理論を理解し、交流回路に関する実践的な問題を8割以上解くことができる。	交流理論を理解し、交流回路に関する実践的な問題を7割程度解くことができる。	交流理論を理解し、説明できる。	交流理論が理解できない。		
評価項目4		電気回路における過渡現象を理解し、実践的な問題を8割以上解くことができる。	電気回路における過渡現象を理解し、実践的な問題を7割程度解くことができる。	電気回路における過渡現象を理解し、説明できる。	電気回路における過渡現象が理解できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	大学教養程度のレベルを授業内容とし、電磁気学及び電気回路の基礎的かつ重要な項目を確実に理解できるように講義する。						
授業の進め方・方法	授業の進め方と授業内容・方法: 基本的な現象及び諸法則の説明を行い、例題をもとに理解を深める。さらにレポート課題により知識の定着を図る。						
注意点	電磁気学には数学力が必要であるが、なかでも微分、積分及びベクトル解析は必須と言ってよい。また、電気回路には複素数及び微分、積分を理解している必要がある。本科で習った数学や物理の重要事項を思い出しながら意欲的に取り組み、例題や演習問題を反復理解することにより、知識を確実なものにして欲しい。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	4thQ	9週	・クーロンの法則 ・電界 ・電位と電位差		・クーロンの法則による電荷間の電気力を理解できる。 ・電界の概念を理解できる。 ・電位の概念や電位差の概念を理解できる。 ・クーロン力、電界、電位に関する諸問題を解くことができる。		
		10週	・ガウスの法則 ・帯電した導体の性質 ・コンデンサと静電容量 ・誘電体		・ガウスの法則を理解できる ・帯電した導体の性質を理解できる。 ・コンデンサと静電容量の概念を理解できる。 ・誘電体の性質を理解できる。 ・ガウスの法則を用いて、各種の電界、電位、静電容量を求める問題を解くことができる。		
		11週	・アンペアの右ねじの法則 ・ビオ・サバルの法則 ・アンペアの周回積分の法則		・アンペアの右ねじの法則を理解できる。 ・ビオ・サバルの法則を理解できる。 ・アンペアの周回積分の法則を理解できる。 ・ビオ・サバルの法則やアンペアの法則を用いて各種の電流が作る磁界を求めることができる。		
		12週	・磁界中の運動電荷や電流に作用する電磁力 ・ファラデーの法則 ・インピーダンスとアドミッタンス ・交流回路の複素表示		・磁界中の運動電荷や電流に作用する電磁力 ・ファラデーの法則 ・磁界中の電流に作用する電磁力及びファラデーの法則に関する諸問題を解くことができる。 ・交流回路における複素表示を理解し、各種回路のインピーダンスとアドミッタンスを求めることができる。 ・瞬時値とフェーザの違いを説明できる。		
		13週	・キルヒホッフの法則 ・重ね合わせの定理		・キルヒホッフの法則を理解できる。 ・ミルマンの定理を理解できる。 ・テブナンの定理を理解できる。 ・キルヒホッフの法則、重ね合わせの定理を用いて種々の問題を解くことができる。		
		14週	・三相回路		・三相交流回路に関する諸問題を解くことができる。		

		15週	・RL回路の過渡応答 ・RC回路の過渡応答 ・RLC回路の過渡応答		・RL回路、RC回路及びRLC回路の過渡状態を求めることができる。	
		16週	・種々の実践問題 ・講義のまとめと振り返り		・電磁気学および電気回路に関する実践的問題を解くことができる。	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル 授業週
評価割合						
	試験		レポート		合計	合計
総合評価割合		70	30		0	100
基礎的能力		20	10		0	30
専門的能力		50	20		0	70
分野横断的能力		0	0		0	0

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	専門英語	
科目基礎情報							
科目番号		63011		科目区分		専門 / 選択	
授業形態		講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科		生産システム工学専攻		対象学年		専1	
開設期		3rd-Q		週時間数		4	
教科書/教材							
担当教員		専攻科各教員					
到達目標							
・ 専門分野の英語論文を読み、その内容を理解し、適切に訳すことができる。 ・ 専門分野の英語論文を読み、その要旨をまとめ、他人に分かりやすく説明することができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1		専門分野の英語論文を読み、その内容を理解し、適切に訳すことができる。	専門分野の英語論文を読み、その内容を理解し、訳すことができる。	専門分野の英語論文を読み、指導教員の指導のもとその内容を理解し、訳すことができる。	専門分野の英語論文を読み、その内容を訳すことができない。		
評価項目2		専門分野の英語論文を読み、その要旨をまとめ、他人に分かりやすく説明することができる。	専門分野の英語論文を読み、その要旨をまとめ、他人に説明することができる。	専門分野の英語論文を読み、指導教員の指導のもとその要旨をまとめ、他人に説明することができる。	専門分野の英語論文を読み、その要旨を他人に説明することができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		自然科学の分野で研究を進めていく上で、英語の学術書や文献を読み、内容を理解して知識を得ることは必要な力である。修了後、どのような進路に進んでも、英語を読みこなす力が要求される。そこで、特別研究に関係した英語論文を和訳し、その内容を報告したり、分かりやすい文章にまとめる訓練を行う。					
授業の進め方・方法		各研究室で担当教員の指導の下、研究テーマや分野に関係した英語論文を検索し、和訳する。また和訳した内容から要旨を報告し、分かりやすい文章でまとめる。 この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習としてレポートを実施する。					
注意点		到達目標①：和訳されたレポートによって評価する。（50%） 到達目標②：要旨をまとめた報告とその報告資料によって評価をする。（50%）					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス 特別研究に必要な専門分野の英語論文の輪読				
		2週	特別研究に必要な専門分野の英語論文の輪読				
		3週	〃				
		4週	〃				
		5週	〃				
		6週	〃				
		7週	〃				
		8週	〃 学習事項のまとめおよび授業改善アンケートの実施				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
		レポート（和訳）		報告（報告書）		合計	
総合評価割合		50		50		100	
知識の基本的な理解		20		10		30	
思考・推論・想像への適用力		20		20		40	
汎用的技能		10		10		20	
態度・志向性（人間性）		0		10		10	
総合的な経験と創造的思考力		0		0		0	

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	経営管理工学	
科目基礎情報							
科目番号	63012			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	授業でつかうプレゼン資料						
担当教員	挾間 雅義						
到達目標							
・ 経営管理、販売管理についてやや難しい知識を理解し、応用できる。 ・ ビジネスプランについては自主的かつ発展的にチームをリードしながら構築できる。 ・ 経営工学手法を理解し、モデルを作成することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)			
経営系知識の習得	経営管理・販売管理について、やや難しい知識を有することができ、発展的に応用できる	経営管理・販売管理について、正しく理解でき、応用できる	経営管理・販売管理について、ある程度の知識を有し、すこし応用できる	経営管理・販売管理について少しの知識しか有さず、応用もできない			
ビジネスプランの構築	ビジネスプランを自主的かつ発展的にチームをリードしながら構築できる	ビジネスプランを自主的に構築できる	ビジネスプランを定められた書式の範囲内で構築できる	ビジネスプランを構築できない			
スケジューリング、コスト、人月計算	経営工学手法を用いてやや複雑なモデルを作成することができる。	経営工学手法を理解しモデルを作成することができる	経営工学手法の基本部分を理解できる	経営工学手法を理解できない			
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	応用的な内容を扱うため、少し難しいと思うかもしれないが、わからない部分はまず、自分たちで調べ、次に教員に質問することで解決させておく必要がある。半期の中で講義とグループワーク形式により、他高専間の学生と交流し、コミュニケーションを取りながら、いろいろな視点で経営管理工学の内容を理解する。						
授業の進め方・方法	・ 資料を配布 ・ スマートボードで授業をおこなう。 ・ グループで課題に取り組む						
注意点	他高専生との交流形式で授業をおこないますので、楽しみながら取り組んでください。本科の経営工学、マーケティング論、生産管理論の理解をしておくこと。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	連携教育に関するガイダンスと遠隔チーム編成	・ 授業の進め方について理解できる。 ・ 遠隔チーム編成が構築できる。			
		2週	企業経営の基礎概念の復習	・ 企業経営の基礎を理解し、起業・創業の基礎を理解できる ・ ビジネスプラン作成方法を理解できる。 ・ 市場調査、プロモーションミックス、AIDMAを理解できる。			
		3週	販売管理ワークショップ (WS)	・ 広告に関するワークショップ (WS) を通じて、遠隔グループワークを実践できる。			
		4週	ビジネスプラン作成WS①	・ テーマを理解し、市場調査方法、原価計算法、利益計画立案方法を理解することができる。			
		5週	ビジネスプラン作成WS②	・ 仮想商品の市場調査を実施できる。 ・ 原価を想定し、利益計画を立てることができる。 ・ チームで役割分担し、チームワークができる。			
		6週	ビジネスプラン作成WS③	・ ビジネスプランを発表することができる。 ・ ビジネスプランをレポートにまとめることができる。			
		7週	中間発表会	・ グループ内で担当を割り当てて制限時間内に発表できる。			
		8週	スケジューリング手法WS① (経営工学手法とは、アローダイアグラム)	・ 経営工学手法にはどのようなものがあるのかを把握できる ・ 先行作業に基づいてアローダイアグラムの作成が出来る			
	4thQ	9週	スケジューリング手法WS② (日程計画法の指標)	・ 日程計画法に必要な時間を求めることができる。			
		10週	スケジューリング手法WS③ (プロジェクトマネジメント 人月計算)	・ 各作業に必要な工数や要員を求めることができる。			
		11週	スケジューリングWS① (ガントチャート、グループワークの取り組み)	・ 他高専と連携して、実用可能なスケジュールテーマを設定し、その内容について議論することができる			
		12週	スケジューリングWS② (グループワークの取り組み②、筆記試験について)	・ 他高専と連携して、実用可能なスケジュールテーマを設定し、その内容について議論することができる			
		13週	期末発表会 (グループが少ない場合は筆記試験対策)	・ グループで担当を決め、制限時間内で説明できる。 ・ (筆記試験で出題される内容の知識を理解し、応用することができる)			

		14週	期末発表会		・グループで担当を決め、制限時間内で説明できる。
		15週	定期試験		
		16週	試験返却		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	口頭発表	筆記試験	レポート	合計	
総合評価割合	40	40	20	100	
知識の基本的な理解	30	10	0	40	
思考・推論・創造への適用力	10	30	5	45	
汎用的技能	0	0	5	5	
態度・志向性（人間力）	0	0	5	5	
総合的な学習経験と創造的思考力	0	0	5	5	

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	工学特論 I	
科目基礎情報							
科目番号		63013		科目区分		専門 / 必修	
授業形態		講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科		生産システム工学専攻		対象学年		専1	
開設期		前期		週時間数		2	
教科書/教材							
担当教員		一田 啓介,山口 隆正,成島 和男,長峯 祐子,野本 直樹,岡本 昌幸					
到達目標							
これらの技術者は、専門分野のみでなく、他分野と融合・複合した知識や技術が求められている。ここでは、融合・複合領域の技術者を育てることを目的とし、機械工学、電気工学、制御情報工学、物質工学に関する分野の講義を受け、基礎知識や新しい技術について自分の専門以外の分野についても理解でき、説明できることが到達目標レベルとなる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)		
評価項目1		自分の専門以外の分野の基礎知識や新しい技術について理解し説明でき、レポートの課題について幅広い情報を収集し、まとめることができる。	自分の専門以外の分野の基礎知識や新しい技術について理解し説明でき、レポートの課題について必要な情報を収集し、まとめることができる。	自分の専門以外の分野の基礎知識や新しい技術について理解し説明でき、レポートの課題をまとめることができる。	自分の専門以外の分野の基礎知識や新しい技術について理解できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		機械工学、電気工学、制御情報工学、物質工学に関する分野の基礎知識や新しい技術について講義する。					
授業の進め方・方法		この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習としてレポートを課す。講義ごとに指示されるレポートについては、提出締切を守り必ず提出すること。また、講義を受講していないのに、レポートの課題だけを後で聞いてレポートを提出することは認められないので注意すること。					
注意点		レポートのみの評価となっているので、レポートが提出されないとその回の評価点は0点となる。だれがどのレポートを出していないといった管理はしないので、毎回締め切りを守ってレポートを提出すること。 到達目標①：レポートにより評価する。(100%)					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	(成島准教授)「光の本質的な性質」① 光の本質的性質, すなわち光の電磁波についての側面と光子についての側面に触れつつ解説する。		自分の専門以外の分野についても、基礎知識や新しい技術について理解でき、説明できる。 講義ごとに指示された内容のレポートを作成できる。		
		2週	(成島准教授)「光の本質的な性質」② 光の本質的性質, すなわち光の電磁波についての側面と光子についての側面に触れつつ解説する。		"		
		3週	(成島准教授)「光エレクトロニクス素子の基礎」① 光を利用した素子, すなわち光エレクトロニクス素子の基本構造や動作原理についての概略を解説する。		"		
		4週	(成島准教授)「光エレクトロニクス素子の基礎」② 光を利用した素子, すなわち光エレクトロニクス素子の基本構造や動作原理についての概略を解説する。		"		
		5週	(一田教授)「ロボットの仕組みについて ロボットの仕組みについて講義する。		"		
		6週	(一田教授)「ロボットマニピュレータについて」② ロボットマニピュレータについて講義する。		"		
		7週	(山口講師)「人工衛星について」① 人工衛星について講義する。		"		
		8週	(山口講師)「人工衛星について」② 人工衛星について講義する。		"		
	2ndQ	9週	(長峯准教授)「静的システムから自発的に生じる動的システム」① 静的システムから自発的に運動を生じる系は多々存在するが、その発生機構は解明されていない。自発運動系に着目した研究内容について説明する。		"		
		10週	(長峯准教授)「静的システムから自発的に生じる動的システム」② 静的システムから自発的に運動を生じる系は多々存在するが、その発生機構は解明されていない。自発運動系に着目した研究内容について説明する。		"		
		11週	(長峯准教授)「技術者倫理と研究記録管理」 技術者倫理と研究記録管理について説明する。		"		
		12週	(長峯准教授)「技術者の英語について」 技術者が業務にて携わる、初歩的な書類英語や、国際学会英語表記Webサイトについて説明する。		"		
		13週	(野本准教授)「水処理について」① 水処理装置を例に、設計にまつわる機械、電気、制御、化学、金銭的要素について学習する。		"		

		14週	(野本准教授)「水処理について」② 水処理装置を例に、設計にまつわる機械、電気、制御、化学、金銭的要素について学習する。	〃		
		15週	専攻科：まとめ、授業アンケート			
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合						
			レポート	合計		
総合評価割合			100	100		
知識の基本的な理解			50	50		
汎用的技能			50	50		

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	工学特論Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号		63014		科目区分		専門 / 必修	
授業形態		講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科		生産システム工学専攻		対象学年		専1	
開設期		後期		週時間数		2	
教科書/教材							
担当教員		徳永 敦士,成島 和男,長峯 祐子,島袋 勝弥,野本 直樹,岡本 昌幸					
到達目標							
これらの技術者は、工学的な観点から実務問題を理解でき、それに対応できる能力が要求される。さらに専門分野だけではなく、他分野と融合・複合した知識や技術が求められている。工学特論Ⅱでは各分野（機械工学、電気工学、制御情報工学、物質工学、その他の分野）の講師を招き、研究や最近の話題について講義を受け、自分の専門分野だけでなく他分野についても、技術の現状や展望および実務上の問題点や課題について理解でき、説明できることが到達目標である。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1		他分野の技術の現状や展望および実務上の問題点や課題について理解し説明でき、レポートの課題について幅広い情報を収集し、まとめることができる。	他分野の技術の現状や展望および実務上の問題点や課題について理解し説明でき、レポートの課題について必要な情報を収集し、まとめることができる。	他分野の技術の現状や展望および実務上の問題点や課題について理解し説明でき、レポートの課題をまとめることができる。	他分野の技術の現状や展望および実務上の問題点や課題について理解できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		各分野（機械工学、電気工学、制御情報工学、物質工学、その他の分野）の講師を招き、研究や最近の話題について講義を行う。また、その他情勢に応じたテーマで講義を行う。					
授業の進め方・方法		この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習としてレポートを課す。講義ごとに指示されるレポートについては、提出締切を守り必ず提出すること。また、講義を受講していないのに、レポートの課題だけを後で聞いてレポートを提出することは認められないので注意すること。					
注意点		レポートのみの評価となっているので、レポートが提出されないとその回の評価点は0点となる。だがどのレポートを出していないといった管理はしないので、毎回締め切りを守ってレポートを提出すること。 到達目標①：レポート（各分野の技術等）により評価する。（100%）					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	専攻科：授業概要説明 （徳永准教授）「気液相変化現象について」① 気液の相変化現象は工業的に利用される代表的な相変化です。ここでは凝縮に注目して近年の研究に関して基礎的な話を含めながら説明します。		自分の専門分野だけでなく他分野についても、技術の現状や展望および実務上の問題点や課題について理解でき、説明できる。 講義ごとに指示された内容のレポートを作成できる。		
		2週	（徳永准教授）「気液相変化現象について」② 気液の相変化現象は工業的に利用される代表的な相変化です。ここでは凝縮に注目して近年の研究に関して基礎的な話を含めながら説明します。		〃		
		3週	（成島准教授）「太陽電池の最新研究の一例」① 光エレクトロニクス素子の一つである太陽電池について講義担当者が現在行っている研究の概要について解説する。		〃		
		4週	（成島准教授）「太陽電池の最新研究の一例」② 光エレクトロニクス素子の一つである太陽電池について講義担当者が現在行っている研究の概要について解説する。同時に、技術者にとって必要不可欠な知財についての話も行う。		〃		
		5週	（長峯准教授）「技術者の実践的英語表記Webサイトからの情報収集について」① 技術者が海外渡航する際に行う、海外公共交通機関などの英語表記Webサイトからの事前情報収集について説明する。		〃		
		6週	（長峯准教授）「技術者の実践的英語表記Webサイトからの情報収集について」② 技術者が英語論文を投稿する際に行う、海外出版社の英語表記Webサイトからの情報収集について説明する。		〃		
		7週	（島袋准教授）「顕微鏡の歴史 -光学顕微鏡の発展をたどる-」 この20年間で顕微鏡技術にいくつもの革新的な進歩があった。今や、対象物をナノメートルやオングストロームレベルで理解できる。本講義では顕微鏡の基礎から最先端技術について紹介する。		〃		
		8週	（島袋准教授）「超解像顕微鏡の誕生とその原理」 21世紀になり、光学顕微鏡のアップ限界が破られた。そのおかげで、今では光学顕微鏡でもナノメートルの精度で標的物の観察が可能となった。超解像顕微鏡の誕生には、検出器の発展、情報工学の爆発的な進歩が密に関わっている。本講義では超解像顕微鏡の誕生を例に、多方面の技術発展の集結をみていく。		〃		

	4thQ	9週	(野本准教授)「水処理について」③ 水処理装置を例に、設計にまつわる機械、電気、制御、化学、金銭的要素について学習する。	〃
		10週	(野本准教授)「開発途上国の衛生環境」 開発途上国の衛生環境は、日本と比較して劣悪である。現状について講義を聞いて把握し、技術者として何ができるかを考える。	〃
		11週	(外部講師①)「未定」①	〃
		12週	(外部講師①)「未定」②	〃
		13週	(外部講師②)「未定」①	〃
		14週	(外部講師②)「未定」②	〃
		15週	専攻科：まとめ、授業評価アンケート	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		レポート		合計	
総合評価割合		100		100	
知識の基本的な理解		50		50	
汎用的技能		50		50	

宇部工業高等専門学校	開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	エンジニアリングデザイン I
科目基礎情報				
科目番号	63015	科目区分	専門 / 必修	
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	生産システム工学専攻	対象学年	専1	
開設期	1st-Q	週時間数	2	
教科書/教材				
担当教員	一田 啓介, 岡本 昌幸, 久保田 良輔			

到達目標

技術者として、一定の条件下で社会から要求された“もの”をデザイン（立案）する能力が求められている。エンジニアリングデザインⅠでは、各担当教員から提示された課題の中から自分の希望する課題を選定し、課題に関連する基礎知識や実験技術を習得し、創造性を発揮して要求される“もの”を立案する能力を養うことを目的とし、次の事項を到達目標とする。

- (1) 調査や実験を通して専門分野の知識や実践的な基礎知識を身に付けることができる。
- (2) 実験の目的・原理を理解し、実験を行い、結果を正しく解析できる。
- (3) 基礎知識に基づいて独創的な“もの”をデザインする為の企画書が作成できる。

ルールブック

	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)
評価項目1	調査や実験を通して専門分野の知識や実践的な基礎知識を幅広く身に付けることができる。	調査や実験を通して専門分野の知識や実践的な基礎知識を幅広く身に付けることができる。	調査や実験を通して専門分野の知識や実践的な基礎知識を身に付けることができる	調査や実験を通して専門分野の知識や実践的な基礎知識を身に付けることができない
評価項目2	実験の目的・原理を良く理解し、実験結果についての解析・考察ができ、考察が論理的にまとめられている。	実験の目的・原理を良く理解し、実験結果についての解析・考察ができる。	実験の目的・原理をある程度理解し、実験結果について解析できる。	実験の目的・原理を理解しておらず、実験結果を正しく解析できない。
評価項目3	グループの一員としての役割と責任を深く理解し、他のメンバーと協調して自分の役割を積極的に果たすことができる。	グループの一員としての役割と責任を良く理解し、自分の役割を積極的に果たすことができる。	グループの一員としての役割と責任をある程度理解し、自分の役割を果たすことができる	グループの一員としての役割と責任を理解しておらず、自主的に行動できない
評価項目4	課題の背景や目標を深く理解し、主要課題に対する具体的な対策や役割分担が良く検討された企画書が作成できる	課題の背景や目標を良く理解し、主要課題に対する具体的な対策をたてた企画書が作成できる。	課題の背景や目標をある程度理解し、企画書が作成できる。	課題の背景や目標を理解しておらず、企画書が作成できない。
評価項目5	スライドにインパクトがあり、デザインする“もの”について主要課題に対する対策などを具体的に分かりやすく説明できる。	スライドの表現が工夫されており、デザインする“もの”について企画書に基づき分かりやすく説明できる。	スライドの表現が解りやすく、デザインする“もの”についてある程度分かりやすく説明できる。	スライドが乱雑で解りにくく、デザインする“もの”についてうまく説明できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	課題に関する説明から、課題の背景や目標を十分に理解して、自主的かつ積極的に取り組むこと。また、疑問点を調査し、考察を深めること。
授業の進め方・方法	担当教員は、基本的には進捗の管理のみを行う。必要に応じて助言を与えることはあるが、担当教員からの助言を期待せず、自主的かつ積極的に取り組むこと。
注意点	到達目標①：レポート（専門分野の知識や実践的な基礎知識）により評価する。（20%） 到達目標②：レポート（実験・結果解析）により評価する。（20%） 到達目標③：取組姿勢により評価する。（20%） 到達目標④：企画書により評価する。（20%） 到達目標⑤：企画書発表会により評価する。（20%）

授業の属性・履修上の区分

☒ アクティブラーニング	☐ ICT 利用	☐ 遠隔授業対応	☐ 実務経験のある教員による授業
--	---------------------------------	---------------------------------	---

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーションおよび課題説明	課題を聞いたのち各班6～7人となる様に班分けを行う。 。班分けは必ず複数の出身学科で構成される様にする。
		2週	課題：風力発電と無線通信（企業テーマ）、KOSENスポーツ、テクノロジーアート	各班に分かれて、課題に必要な基礎知識の学習、文献調査、実験方法の修得を行う。企画書を作成する為の基礎実験を実施し、結果を正しく解析できる。基礎知識、基礎実験に基づいて独創的な“もの”をデザインする為のタイムスケジュールや役割分担を記載した企画書が作成できる。
		3週	〃	〃
		4週	〃	〃
		5週	〃	〃
		6週	〃	〃
		7週	企画書発表会	企画書に基づきデザインする“もの”について分かりやすく説明できる。
		8週	まとめ、授業アンケート実施	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	1レポート	2レポート	3取組姿勢	4企画書	5企画書発表会	合計	
総合評価割合	20	20	20	20	20	100	
知識の基本的な理解	4	4	3	4	5	20	
思考・推論・創造への適用力	8	8	3	4	5	28	
汎用的技能	8	8	7	4	10	37	
態度・志向性（人間力）	0	0	7	4	0	11	
総合的な学習経験と創造的思考力	0	0	0	4	0	4	

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	エンジニアリングデザインⅡ	
科目基礎情報							
科目番号	63016			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	通年			週時間数	1		
教科書/教材							
担当教員	一田 啓介,岡本 昌幸,久保田 良輔						
到達目標							
技術者として、一定の条件下で社会から要求された“もの”をデザイン（立案）する能力が求められている。エンジニアリングデザインⅡでは、エンジニアリングデザインⅠで作成した企画書に基づき、チームでコミュニケーションを取りながら取り組み、コスト等の制約条件や自然・社会への影響を考慮して解としての“もの”を実現することを目的とし、次の事項を到達目標とする。 (1) 企画書に基づき、チームでコミュニケーションを取り創意工夫をして“もの”づくりを進めることができる。 (2) 種々の制約条件や自然・社会への影響を考慮しながら、解としての“もの”を実現することができる。 (3) 立案した“もの”について報告書にまとめ、報告会で分かりやすく説明することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安（優）	標準的な到達レベルの目安（良）	最低限の到達レベルの目安（可）	未到達レベルの目安（不可）			
評価項目1	進捗から企画書の計画を改善でき、着実に実行することができる。	企画書に基づき、進捗を確認しながら着実に実行することができる。	企画書に基づき、ある程度実行することができる。	企画書に基づき実行することができない			
評価項目2	遅れや問題が発生した場合は、新たな対策を複数計画し、目標を達成することができる。	遅れや問題が発生した場合は、新たな対策を複数計画し、着実に実行することができる。	遅れや問題が発生した場合は、新たに対策を講ずることができる。	遅れや問題が発生しても新たに対策を講ずることができない。			
評価項目3	グループの一員としての役割と責任を深く理解し、他のメンバーと協調して自分の役割を積極的に果たすことができる。	グループの一員としての役割と責任を良く理解し、自分の役割を積極的に果たすことができる。	グループの一員としての役割と責任をある程度理解し、自分の役割を果たすことができる。	グループの一員としての役割と責任を理解しておらず、自主的に行動できない。			
評価項目4	デザインした“もの”について作品報告書が作成でき、駆使した知識や技術について分かりやすくまとめることができる。	デザインした“もの”について作品報告書が作成でき、創意工夫した点などを分かりやすくまとめることができる。	デザインした“もの”について作品報告書が作成できる。	デザインした“もの”について作品報告書が作成できない。			
評価項目5	スライドにインパクトがあり、デザインした“もの”について駆使した知識や技術について分かりやすく説明できる。	スライドの表現が工夫されており、デザインした“もの”について創意工夫した点などを分かりやすく説明できる。	スライドの表現が解りやすく、デザインした“もの”についてある程度分かりやすく説明できる	スライドが乱雑で解りにくく、デザインした“もの”についてうまく説明できない。			
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	企画書に基づき着実に実行するため、毎回「何をどこまで誰が行うか」をグループ内で明確にすること。また、月の最終週には月報を作成し、遅れや問題がないかについて確認すること。						
授業の進め方・方法	担当教員は、基本的には進捗の管理のみを行う。必要に応じて助言を与えることはあるが、担当教員からの助言を期待せず、自主的かつ積極的に取り組むこと。						
注意点	遅れ等を挽回する為に時間外にも取り組むことは拒まないが、特別研究等に支障をきたさないように注意すること。 到達目標①：月報、担当報告書（企画書に基づいているか）により評価する。（20%） 到達目標②：月報、担当報告書（遅れ・問題等の新たな対策）により評価する。（20%） 到達目標③：取組姿勢により評価する。（20%） 到達目標④：作品報告書により評価する。（20%） 到達目標⑤：報告会により評価する。（20%）						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週	課題：風力発電と無線通信（企業テーマ）、KOSENスポーツ、テクノロジーアート		企画書での実施計画に基づき“もの”の開発・製作を行う。毎月末には月報及び担当報告書を作成して進捗状況を自主的・継続的に確認し、遅れや問題が発生した場合にはそれに対する対策等を新たに講ずる。		
		10週	〃		〃		
		11週	〃		〃		
		12週	〃		〃		
		13週	〃		〃		

後期		14週	〃	〃
		15週	〃	〃
		16週	中間報告会	進捗状況の報告を行うことができる。
	3rdQ	1週	課題：風力発電と無線通信（企業テーマ）、KOSENスポーツ、テクノロジーアート	中間報告会で受けた意見や指摘に対し、必要に応じて実施計画の変更を行う。毎月末には月報及び担当報告書を作成して進捗状況を自主的・継続的に確認し、遅れや問題が発生した場合にはそれに対する対策等を新たに講ずる。
		2週	〃	〃
		3週	〃	〃
		4週	〃	〃
		5週	〃	〃
		6週	最終報告会	デザインした“もの”について分かりやすく説明できる。
		7週	作品報告書作成	作品報告書を作成することができる。
		8週	まとめ、授業アンケート実施	
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	1月報、担当報告書	2月報、担当報告書	3取組姿勢	4作品報告書	5発表会	合計
総合評価割合	20	20	20	20	20	100
知識の基本的な理解	4	4	3	4	5	20
思考・推論・創造への適用力	8	8	3	4	5	28
汎用的技能	8	8	7	4	10	37
態度・志向性（人間力）	0	0	7	4	0	11
総合的な学習経験と創造的思考力	0	0	0	4	0	4

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	工学複合実験	
科目基礎情報							
科目番号	63017			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験			単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	生産システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	1		
教科書/教材							
担当教員	藤田 活秀,森崎 哲也,篠田 豊,徳永 敦士,春山 和男,仙波 伸也,三澤 秀明,吉田 雅史,三谷 芳弘,岡本 昌幸						
到達目標							
近年の技術は総合的な技術を融合・複合して新技術を生み出している。このような情勢から、専門知識を深めるだけでなく、自己の専門分野以外の技術や実験方法等の知識を得ることは、研究や仕事を遂行する上で極めて有用である。工学複合実験では各分野の専門的な実験実習を行い、各種実験方法を習得するとともに、実験結果を専門的な理論を基に解析・考察し、レポートを作成できることが到達目標である。さらに、自己の専門分野の実験においては他の学生の補助・指導・レポートの添削を行い、修得した技術・知識を再確認できることが到達目標レベルとなる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	未到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)			
評価項目1	実験の目的・原理を理解し、実験計画を立て、主体的に遂行し、実験方法を習得できる。	実験の目的・原理を理解し、実験計画を立て、主体的に遂行できる。	実験の目的・原理を理解し、実験計画を立て、遂行できる	実験の目的・原理を理解し、実験計画を立てることができない。			
評価項目2	実験結果を理論と関連付けて解析・考察し、レポートにおいて実験結果についての考察が論理的に展開されている	実験結果を理論と関連付けて解析・考察し、レポートにおいて実験結果についての考察が論理的にまとめられている。	実験結果を理論と関連付けて解析・考察し、レポートとしてまとめることができる	実験結果を理論と関連付けて解析・考察することができない。			
評価項目3	自己の専門分野においては、他の学生に判り易くリーダーシップをもって補助・指導ができ、レポートの添削ができる。	自己の専門分野においては、他の学生にリーダーシップをもって補助・指導ができ、レポートの添削ができる。	自己の専門分野においては、他の学生の補助・指導およびレポートの添削ができる。	自己の専門分野においては、他の学生の補助・指導およびレポートの添削ができない。			
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	各分野（機械工学，電気工学，制御情報工学）の基礎的な実験実習を行い，各種実験方法を習得するとともに，実験結果を基礎的な理論を基に解析・考察し，レポートを作成できる能力を養う。また，自己の専門分野の実験においては，他分野の学生を補助・指導を行い，修得した技術・知識を再確認する。						
授業の進め方・方法	この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習としてレポートを課す。他の学生に対する補助・指導の準備として実験書・指導書の作成を行い、この作成した実験書・指導書を基に、本人が担当する実験にあらかじめ習熟し、併せて他の学生に実験指導ができるようにシミュレーションしておくこと。						
注意点	レポートの評価の割合が50%と高くなっている。だれがどのレポートを出していないといった管理はしないので、毎回締め切りを守ってレポートを提出すること。 到達目標①：実験書・指導書により評価する。(30%) 到達目標②：レポートにより評価する。(50%) 到達目標③：取組姿勢により評価する。(20%)						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	専攻科：オリエンテーション グループ分け、準備（所属学科の実験準備および予備実験）		所属研究室以外の学生に対する補助・指導の準備として実験書・指導書の作成を行うことができる。 所属研究室の実験準備および予備実験を行うことができる。		
		2週	準備（所属学科の実験準備および予備実験）		〃		
		3週	（三谷教授）「H8プログラミング」 内容（3時間×4） H8マイコンを搭載した実習キットを用いて、スイッチLED、7セグLED、センサやモータを、C言語プログラムにより制御する方法を理解する。		所属研究室で本人が担当する実験は、実験補助・指導およびレポートの添削を行うことができる。その他の学生は、担当者の指示に従って実験を行い、レポートの作成を行うことができる。		
		4週	〃		〃		
		5週	〃		〃		
		6週	〃		〃		
		7週	（春山教授）「A/D・D/Aコンバータ」 内容（3時間） ディジタル通信ではA/D・D/A変換が必須である。ここではZ80マイコンを用いて実際にA/D・D/A変換を行ってその仕組みを理解すると同時に、変換装置によって生じるA/D・D/A変換の誤差についても学習する。		〃		
		8週	（仙波教授）「トランジスタの静特性評価実験」 内容（3時間） トランジスタの静特性を測定し、その特性からトランジスタのもつ増幅機能性とスイッチング機能性についての理解を深める。		〃		

2ndQ	9週	(三澤准教授)「組み合わせ論理回路」 内容(3時間) 真理値表からカルノー図を用いて簡単化した論理式を導き、論理和などの素子を組み合わせ、出力を観測することで、デジタル回路の設計手順を理解する。	〃
	10週	(吉田准教授)「絶縁破壊試験」 内容(3時間) 電気機器には固体、液体、気体など様々な絶縁物が使用されている。これらの絶縁耐力試験方法および絶縁物に高電圧を印加したときの一般的特性を理解する。	
	11週	(藤田教授)「実験モード解析による梁の振動特性の測定」 内容(3時間) 機械の振動・騒音を分析する手法としてモード解析がある。本実験では、簡単な対象物として梁を対象とした振動実験を行い、得られた周波数応答関数から梁の振動特性を求めることで、実験モード解析及び固有振動数と固有モードに関する理解を深める。	〃
	12週	(森崎教授)「画像計測」 内容(3時間) 透視変換の原理とカメラパラメータのキャリブレーション方法を学習し、カメラによって得られた画像からロボット等目標物の位置測定を行うことを目的とした実験を行う。	〃
	13週	(篠田教授)「金属の組織制御と力学特性評価」 内容(3時間) 純アルミニウムに種々の組織制御を施し力学特性との相関関係を理解する。	〃
	14週	(徳永准教授)「熱電対製作と熱物性の評価」 内容(3時間) 伝熱分野では温度を計測する際に熱電対を使用する。ここでは熱電対の種類や原理を学び、製作方法を身につけるとともに、熱伝導実験を通して熱物性値の評価を行う。	〃
	15週	専攻科：まとめ、授業アンケート	
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	1 実験所・指導書	2 レポート	3 取組姿勢	合計	
総合評価割合	30	50	20	100	
知識の基本的な理解	6	25	2	33	
思考・推論・創造への適用力	8	25	6	39	
汎用的技能	8	0	6	14	
態度・志向性(人間力)	8	0	6	14	

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	特別研究 I	
科目基礎情報							
科目番号	63018			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実験			単位の種別と単位数	学修単位: 10		
開設学科	生産システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	通年			週時間数	5		
教科書/教材							
担当教員	岡本 昌幸,専攻科各教員						
到達目標							
次の4点が到達レベルである。 (1)研究テーマの社会的背景について調査し、研究計画を立て、研究テーマへの継続的な取り組みができる。 (2)得られた研究結果について整理し、知識・技術を総合して解析・考察ができる。 (3)研究内容について概要をまとめることができる。 (4)研究内容についてプレゼンテーションできる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安(不可)			
評価項目1	幅広い分野の情報や知識を修得し、研究計画を複数計画し、研究計画の進捗から今後の研究計画を改善できる。	専門分野以外の情報や知識を修得し、研究計画を複数計画し、研究計画の進捗から今後の研究計画を確認できる。	研究テーマに関する情報や知識を修得し、研究の目的を達成するための研究計画をたて、研究計画の進捗状況を報告できる。	研究テーマに関する情報や知識を修得できず、研究の目的を達成するための研究計画をたてることができない。			
評価項目2	研究計画を繰り返し遂行し、研究結果について解析・考察ができ、研究目的の達成度を評価できる。	研究計画を繰り返し遂行し、研究結果について解析・考察ができ、研究目的に関連づけることができる。	研究計画を遂行し、研究結果について解析・考察ができる。	研究計画を遂行できず、研究結果について解析・考察ができない。			
評価項目3	研究テーマを深く理解し、多様な視点から検討がなされ、研究結果についての考察が論理的に展開されている。	研究テーマを理解し、複数の視点から検討がなされ、研究結果についての考察が論理的にまとめられている。	研究テーマをある程度理解し、研究結果についての考察がある程度論理的にまとめられている。	研究テーマを理解しておらず検討が不十分で、研究結果についての考察が論理的にまとめられていない。			
評価項目4	スライドにインパクトがあり、研究結果についての考察が論理的に展開され、解りやすく説明できる。	スライドの表現が工夫されており、研究結果についての考察が論理的に説明できる。	スライドの表現が解りやすく、研究結果についての考察がある程度論理的に説明できる。	スライドが乱雑で解りにくく、研究結果についての考察が論理的に説明できない。			
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	指導教員の下で研究テーマに対し研究計画を立て、指導教員と相談しながら知識・技術を総合して研究を進め、研究概要を要旨集としてまとめ、研究の進捗状況を中間発表会で発表する。また、研究成果は特別研究Ⅰ・Ⅱの何れかで学外の学協会などで講演発表を行い、優れた研究成果については学術論文に投稿する。						
授業の進め方・方法	1. 研究計画書は、書式自由で指導教員とよく相談して作成し、必要に応じて見直しを行う。 2. レポート(研究資料等)作成は4月、7月、10月、12月を標準とする。ただし、研究室毎に提出時期や提出回数を変更できる。 3. 要旨集は、研究概要をA4用紙2枚にまとめ、定められた日時までに必ず提出する。 4. 中間発表会は教員などの多人数を対象として2月にプレゼンテーションを行う。 5. 研究成果は、特別研究Ⅰ・Ⅱの何れかで学外の学協会などで講演発表を必ず行う。国際学会での発表やレフリーのつく学会論文集の掲載については、学生表彰の対象にしている。						
注意点	高専本科を卒業した出身学科毎に専攻の区分が異なる。すなわち、機械工学科は機械工学、電気工学科は電気電子工学、制御情報工学科は情報工学、物質工学科は応用化学、経営情報学科は社会システム工学が、それぞれ専攻の区分となる。専攻の区分毎に、指導可能な教員及び課題名がある。専攻の区分を超えて、課題を選択できないので注意すること。また、指導教員の指導の下、その課題に則した、あるいは関連した研究を実施すること。 到達目標①：研究計画書により評価する(主査)。(10%) 到達目標②：レポート(研究資料等)により評価する(主査)。(50%) 到達目標③：要旨集により評価する(主査)。(20%) 到達目標④：中間発表会により評価する(主査)。(20%)						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	以下、教員名で、㊦は指導補助教員であり、無印は指導教員である。専攻の区分毎に、教員名及び課題名を示す				
		2週	専攻の区分 機械工学 藤田浩秀 機械・構造物における振動のメカニズムに関する研究 後藤 実 低摩擦・耐摩耗性表面処理のトライボロジー特性に関する研究 篠田 豊 セラミックス・合金およびサーメットの力学特性評価に関する研究 一田啓介 劣駆動マニピュレータの制御に関する研究 徳永敦士 気液相変化現象の本質的理解と工学的応用に関する研究				

後期		3週	専攻の区分 電気電子工学 春山和男 高齢者の安否確認に関する研究 岡本昌幸 パワー半導体デバイスを用いた電力変換回路の製作と評価に関する研究 碓 智徳 電気電子材料表面の物性に関する研究 成島和男 有機半導体を用いた太陽電池の発電機構における理論的・実験的検討 三澤秀明 知的情報処理に関する研究 池田風花・岡本昌幸 パワーエレクトロニクス技術を用いた電力品質保証に関する研究 吉田雅史 水素イオンの高効率生成に関する研究	
		4週	専攻の区分 情報工学 久保田良輔・内堀晃彦 新たな計算知能アルゴリズムの開発とその工学的応用に関する研究 江原史郎 音響計測システムの構築に関する研究 田辺誠 ソフトウェア検証技術およびシステム構築への応用に関する研究 長峯祐子 非線形現象に関する物性研究 松坂建治 生体・脳の情報処理に基づく機能および機構の実現に関する研究 武藤義彦 知的メディアシステムに関する研究	
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	1 研究計画書	2 レポート（研究資料等）	3 中間発表	4 要旨集	合計
総合評価割合	10	50	20	20	100
知識の基本的な理解	1	6	2	2	11
思考・推論・創造への適用力	1	16	7	7	31
汎用的技能	6	16	7	7	36
態度・志向性（人間力）	1	6	2	2	11
総合的な学習経験と創造的思考力	1	6	2	2	11

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	インターンシップ	
科目基礎情報							
科目番号	63019			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実習			単位の種別と単位数	学修単位: 3		
開設学科	生産システム工学専攻			対象学年	専1		
開設期	通年			週時間数	1.5		
教科書/教材							
担当教員	岡本 昌幸,専攻科各教員						
到達目標							
(1)学位専攻区分に関連付けて、実習先における実務を説明できる。 (2)実習先における実務に対し、専門知識・技術を活かした取り組みを行える。 (3)活動を通して、新たな専門知識・技術を獲得できる。 (4)自己のキャリアデザインについて考えることができる。 (5)社会が求める技術者・研究者の資質を説明できる							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1		学位専攻区分における具体的な専門科目、関連科目、専攻外科目と関連付けて、実習先における実務を説明できる。	学位専攻区分における具体的な専門科目と関連付けて、実習先における実務を説明できる。	学位専攻区分に関連付けて、実習先における実務を説明できる。	学位専攻区分に関連付けて、実習先における実務を説明できない。		
評価項目2		実習先における実務に対して、専門知識・技術を活かし、自己の意見を積極的に取り入れた取り組みを行える。	実習先における実務に対して、専門知識・技術を活かし、計画的な取り組みを行える。	実習先における実務に対し、専門知識・技術を活かした取り組みを行える。	実習先における実務に対し、専門知識・技術を活かした取り組みを行うことができない。		
評価項目3		活動を通して、新たな専門知識・技術を獲得し、その専門領域について、既習の内容と関連付けて説明できる。	活動を通して、新たな専門知識・技術を獲得し、その専門領域について説明できる。	活動を通して、新たな専門知識・技術を獲得できる	活動を通して、新たな専門知識・技術を獲得できない。		
評価項目4		自己のキャリアデザインについて考え、実現するための計画を立てることができる。	自己のキャリアデザインについて考えることができる。	経験した実務内容に対する自己の適性について考えることができる。	経験した実務内容に対する自己の適性について考えることができない。		
評価項目5		技術者・研究者にとって、どのような資質が必要か、なぜ必要か、具体的に説明できる。	技術者・研究者にとって、どのような資質が必要か、具体的な内容を説明できる。	技術者・研究者にとって、どのような資質が必要か説明できる。	技術者・研究者にとって、どのような資質が必要か説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	企業、大学等における長期実習を通して、これまでに修得してきた知識や技術、これから学修する事項が実践的にどのように活用できるのか、学修内容と実務問題との繋がりを理解するとともに、現場における独創的な技術やノウハウを吸収し、自己の専門領域の深化、高度化を図ることを目的とする。また、企画提案や課題解決の実務を経験することによって、課題発見・探求能力、実行力といった技術者として必要な資質を高めることを目的とする。原則として夏季休業期間中に135時間以上の実習を行うものとする。実習内容は、それぞれの学位専攻区分（機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、社会システム工学）に準ずるものとする。実習内容を報告書としてまとめ、その内容を発表する。 単位の数え方（3～6単位） 135～179時間：3単位，180～224時間：4単位，225～269時間：5単位，270～314時間：6単位						
授業の進め方・方法	・原則として実習期間は1年次の夏季休業期間中とし、実習先は1社（機関）とする。 ・実習テーマおよび実習期間は実習前から提示されたものを基本とし、指導教員と実習先とで協議の上決定する。実習内容は、学位専攻区分（機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、社会システム工学）に準ずるものとする。 ・事前指導として、社会人として守らなければならない基本的なルールの徹底と心構えについて指導を行う。 ・事前準備として、実習内容と専門性の関連について整理する（事前報告書の作成）。 ・指導教員は、必要に応じ状況の把握と指導を行うものとする。 ・実習中に日々の実習内容をインターンシップ実習日誌に記録し、実習先の点検を受けた後、本校へ提出する。 ・実習終了時にインターンシップ報告書を作成し、実習先と本校へ提出する。 ・実習終了後、インターンシップ報告会において実習内容を発表する。 ・実習期間中に知り得た企業秘密等については、絶対他に漏えいしないこと。 ・実習は原則として無報酬とする。 ・事後指導として、全員の実習終了後に報告会を開催し、到達目標の達成度について評価する。 ・事後指導として、自己のキャリアデザインについて評価する（事後報告書の作成）。 ・全体を通して、問題点や改善点があれば問題解決のための方策を講じる。						
注意点	インターンシップでは、企業などでの長期にわたる種々の実習を通じ、実務問題の理解と対応能力を身につけることを目的としている。また実習を通して、仕事の進め方、社会人としての接し方を学び、社会が要求し期待する職業人としての技術者像を確立するよう努めること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	インターンシップ（135時間以上）の実施				
		2週	"				
		3週	"				
		4週					
		5週					

		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	1 報告書	2報告会	3事件事後報告書	合計	
総合評価割合	60	35	5	100	
知識の基本的理解	30	15	0	45	
思考・推論・創造への適用力	10	10	0	20	
汎用的技能	10	5	0	15	
態度・志向性（人間力）	10	5	5	20	

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	トライボロジー応用	
科目基礎情報							
科目番号	63021			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期	1st-Q			週時間数	4		
教科書/教材	「はじめてのトライボロジー」 佐々木信也他著 (講談社)						
担当教員	後藤 実						
到達目標							
トライボロジーの科目における到達目標レベルは次の通りである。 1) 固体間の摩擦・摩耗現象の基礎が理解できる。 2) 潤滑油による潤滑の基礎が理解できる。 3) 簡単な機械要素の摩擦損失低減や耐摩耗性の向上を図るための方針を立案する事が出来る。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安			
評価項目1	固体間の接触状態を考慮した摩擦・摩耗現象を定量的に理解できる。	固体間の接触状態を考慮した摩擦・摩耗現象を定性的に理解できる。	固体間の摩擦・摩耗現象の基礎が理解できる。	固体間の摩擦・摩耗現象の基礎が理解できない。			
評価項目2	レイノルズ方程式を用いた動圧軸受の潤滑理論を定量的に理解できる。	潤滑油に含まれる各種添加剤による境界潤滑の基礎が理解できる。	潤滑油による潤滑の基礎が理解できる。	潤滑油による潤滑の基礎が理解できない。			
評価項目3	機械要素の摩擦損失低減や耐摩耗性の向上を図るための具体的な潤滑法を複数立案し、それらの得失を理解出来る。	機械要素の摩擦損失低減や耐摩耗性の向上を図るための具体的な潤滑法を立案出来る。	簡単な機械要素の摩擦損失低減や耐摩耗性の向上を図るための方針を立案出来る。	簡単な機械要素の摩擦損失低減や耐摩耗性の向上を図るための方針を立案出来ない。			
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	※実務との関係 この科目は企業で商用車用ディーゼルエンジン省燃費・環境技術の研究開発およびトラック車体機構の研究開発を担当していた教員が、その経験を生かし、エネルギー損失低減や機械システムの耐久性・信頼性向上に必要な不可欠な摩擦・摩耗現象の基礎と潤滑技術について指定した専門書を参照しながら対話を主とした講義形式で授業を行うものである。 トライボロジーは1966年に公表されたJOSTレポートにおいて「相対運動をする2物体間の相互作用をおよぼしあう表面、およびこれに関連する諸問題と実地応用に関する科学と技術」と定義されている比較的新しい学問領域である。トライボロジーが取り扱う対象は機械の摩擦・摩耗のみならず、物理・化学などの自然科学の分野や材料学はもとより電気・電子工学なども含まれる学際領域の学問分野である。実際の工業界においても、摩擦・摩耗・潤滑に関する技術課題は機械・化学・生物・地学・電気・電子などありとあらゆる業種において存在し、その課題克服への要望は今後も絶えることはないだろう。この複雑な摩擦・摩耗現象を解明し、人類の役に立つ技術へと変えていく研究者がトライボロジストであり、トライボロジストは複数の専門分野にわたる知識と広い視野そして深い洞察力と高いコミュニケーション能力が必要とされる。このトライボロジーの授業をきっかけに、トライボロジーが持つ学際的な課題に取り組む面白さを感じ、広い視野と旺盛な好奇心をもったトライボロジストの卵が巣立って行ってくれることを願ってやまない。						
授業の進め方・方法	この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習としてレポートや口頭試問等を実施します。						
注意点	トライボロジーは幅広い学術分野にわたる学問であるので、各自の専門外の分野についても積極的に予習・復習を行うこと。 講義の中で理解できない点や不明な点は積極的に質問し、極力その授業中に解決するよう留意すること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	第1回トライボロジーの概要 第2回固体の表面と接触①		トライボロジーの歴史や位置づけ、およびトライボロジーが目指すものを理解できる。固体表面の形状を表す粗さパラメータや固体表面層の構造と性質について理解できる。		
		2週	第3回固体の表面と接触② 第4回乾燥摩擦		個体間の接触におけるヘルツ接触および真実接触面積の概念を理解できる。すべり摩擦の基本法則と摩擦の凝着理論の関係について理解できる。また、摩擦の掘り起こし効果、スティックスリップ現象、および、閃光温度について理解できる。		
		3週	第5回潤滑油 第6回グリース		潤滑油の構成と、基油および添加剤の作用について理解できる。グリースの構成と作用について理解できる。		
		4週	第7回境界潤滑と混合潤滑 第8回流体潤滑理論と動圧軸受		境界潤滑と混合潤滑の違いをストライバック線図を用いて理解できる。流体潤滑理論の基礎と動圧軸受への応用について理解できる。		
		5週	第9回摩耗 第10回トライボマテリアルと固体潤滑		摩耗形態とその解析モデルについて理解できる。トライボマテリアルの種類と固体潤滑理論について理解できる。		
		6週	第11回摩擦・摩耗試験 第12回表面の計測・分析		摩擦・摩耗試験の目的と分類を理解できる。トライボロジーにおける表面の計測・分析の目的と意義を理解し、各種計測・分析技術の基本原則と留意点を理解できる。		
		7週	第13回ナノトライボロジー 第14回トライボロジー最前線		クロナ領域の摩擦・摩耗現象を理解し、ミクロ現象とマクロ現象の関係について理解できる。トライボロジーの最新の話題について理解できる。		

		8週	第15回期末試験 第16回答案返却・解答解説、授業改善アンケートの実施		解答解説によりトライボロジーについてより一層理解を深められる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
知識の基本的な理解	15	0	0	0	0	4	19
思考・推論・創造への適用力	15	0	0	0	0	5	20
汎用的技能	10	0	0	0	0	1	11
総合的な学習経験と創造的思考力	40	0	0	0	0	10	50

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	弾塑性力学	
科目基礎情報							
科目番号	63022			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期	3rd-Q			週時間数	4		
教科書/教材	弾塑性力学の基礎 吉田総仁著 (立教出版)						
担当教員	篠田 豊						
到達目標							
1. 結晶のすべりについて考察できる。 2. 弾塑性問題における応力やひずみを考えることができる。 3. さまざまな降伏関数, 硬化則を材料の降伏応力を評価する事ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)			
評価項目1	結晶のすべり, 転位から塑性変形について考えることができる。	結晶のすべり, 転位が考察できる。	結晶のすべりを考察できる。	結晶のすべり, 転位が考察できない。			
評価項目2	弾塑性問題における応力やひずみ, はりの曲およびねじりを評価することができる。	弾塑性問題における応力やひずみはりの曲げを考える事ができる。	弾塑性問題における応力やひずみを考えることができる。	弾塑性問題における応力やひずみを考えることができない。			
評価項目3	一般的な降伏関数と様々な硬化則より, 材料の降伏応力を評価することができる。	一般的な降伏関数と降伏条件およびさまざまな硬化則がまとめることができる。	一般的な降伏関数と降伏条をまとめることができる。	一般的な降伏関数と降伏条をまとめることができない。			
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	この講義では, 材料の降伏条件および降伏応力を求め, 部材の塑性変形がどの程度の荷重で始まるのか。また, 連続体力学において, 塑性変形をどのように扱うのかを学びます。						
授業の進め方・方法	講義を行い適宜, 課題やレポートを課します。						
注意点	弾塑性力学は, 材料力学等で学習した弾性力学と新たに学ぶ塑性力学の両方の知識が必要な学問です。そのため, 弾性力学 (材料力学) の知識および数学の知識が不足している場合は復習しておく必要があります。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンス コーシー応力テンソル	弾塑性力学の目的・意義, および学習内容の概要 について説明できる。 コーシー応力テンソルを理解する。			
		2週	偏差応力テンソル 結晶性材料のの塑性変形	偏差応力テンソルについて理解できる。 結晶性材料のの塑性変形が理解できる。			
		3週	フォン・ミーゼスの降伏条件 せん断ひずみエネルギー説	フォン・ミーゼスの降伏条件が理解できる。 せん断ひずみエネルギー説について理解できる。			
		4週	トレスカの降伏条件 極座標系における弾性問題	トレスカの降伏条件について理解できる。 極座標系における弾性問題について理解できる。			
		5週	円筒の弾塑性問題 直交デカルト座標系における弾性力学の基礎方程式	円筒の弾塑性問題が理解できる。 直交デカルト座標系における弾性力学の基礎方程式が理解できる。			
		6週	エアリの応力関数 エネルギー原理	エアリの応力関数について理解できる。 エネルギー原理について理解できる。			
		7週	仮想仕事の原理 (1) 仮想仕事の原理 (2)	仮想仕事の原理について理解できる。 仮想仕事の原理をはりのたわみ問題に応用できる。			
		8週	最小ポテンシャルエネルギーの原理 これまでの振り返り解説	最小ポテンシャルエネルギーの原理について理解できる。			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	課題提出	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	60	40	0	0	0	0	100
知識の基本的な理解	40	40	0	0	0	0	80
思考・推論・創造への 適用力	20	0	0	0	0	0	20
汎用的技能	0	0	0	0	0	0	0
態度・志向性(人間力)	0	0	0	0	0	0	0
総合的な学習経験と 創造的思考力	0	0	0	0	0	0	0

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	熱流体工学	
科目基礎情報							
科目番号	63023		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年		専2		
開設期	3rd-Q		週時間数		4		
教科書/教材	指定なし。ただしJSMEテキストシリーズ伝熱工学を事前に読んでおくことが好ましい。						
担当教員	徳永 敦士						
到達目標							
(1)熱伝導問題を理解できる。 (2)境界層と伝熱の関係を理解できる。 (3)相変化伝熱の基礎について理解できる。							
ルーブリック							
	優れた到達レベルの 目安（優）		良好な到達レベルの 目安（良）		最低限の到達レベルの 目安（可）		未到達レベルの 目安（不可）
熱伝導問題	一次元熱伝導方程式を導くことができ、非定常問題を計算できるとともに、差分式を数値的に解析できる		一次元熱伝導方程式を導くことができ、非定常問題を計算できる、もしくは差分式を数値的に解析できる		一次元熱伝導方程式を導くことができる。		一次元熱伝導方程式を導くことができない。
境界層の積分方程式	境界層内の積分方程式について、プロファイル法によって解くことが出来、その結果を用いて平均熱伝達率を解析できる		境界層内の積分方程式について、プロファイル法によって解析できる		境界層内のエネルギー、運動量、質量保存のいずれかの積分方程式が導出できる		境界層内のエネルギー、運動量、質量保存のいずれかの積分方程式が導出できない
相変化伝熱	凝縮、沸騰熱伝達の熱伝達について理解し、気体分子運動論によって相変化現象について理解できる		凝縮、沸騰熱伝達の熱伝達について理解できる		凝縮、沸騰の形態について説明できる		凝縮、沸騰の形態について説明できない
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	昨今の伝熱学は、エネルギー関連分野のみではなく、ナノテクノロジーや、電子デバイスといった、様々な分野を対象とする。しかしながら、これらの分野でも、伝熱基本三形態を中心とした本質的な理解が重要であり、さらに数値解法などの新たな技術を活用した現象の把握が必要である。そこで、これらの視点からの講義によって、熱・物質輸送現象の理解を深める。						
授業の進め方・方法	基本的な伝熱の支配方程式を利用した式の導出においては学生自身に取り組んでもらう。また演習問題も同様に学生に解答と解説を行ってもらう。内容は一次元の熱伝導方程式の導出とエクセルを利用した熱伝導方程式の数値解析を行う。またプロファイル法による積分方程式の解析、気体分子運動論による温度や圧力の考え方を示す。加えて分子動力学法について理解を深めるとともにプログラミングの実践に取り組む。この講義は、熱力学、伝熱工学、流体力学関連科目をさらに深める内容となっている。						
注意点	数値計算にはプログラミングの能力が必要であるが、簡単な数値計算ならばExcelでも計算可能である。そこで、可能であればノートパソコンを持参し、実際に数値計算を行ってもらう予定である。数学的知識が必要なため、微積分を復習しておくこと。 試験評価点＝Max（中間・期末の平均点，期末試験の点数） レポートとの合算により60点以上を合格とする。 学力再確認試験を実施する場合があるが、その場合は最終評価60点満点で評価する。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	伝熱三形態 熱伝導方程式		伝熱の基本三形態（熱伝導，熱伝達，熱放射）について理解できる 熱伝導方程式の導出と数値解析法について理解できる		
		2週	非定常熱伝導 非定常熱伝導の解法		非定常熱伝導について理解できる 非定常熱伝導の解法（集中熱容量モデル，ハイスラー線図）について理解できる		
		3週	数値解析法I（定常熱伝導） 数値解析法II（非定常熱伝導）		支配方程式を差分化できる 熱伝導方程式の導出と数値解析法について理解できる		
		4週	中間試験 試験解説		中間試験を行い、これまでの内容を理解する 試験問題の解説により、理解を深める		
		5週	境界層理論 相変化伝熱の基礎		エネルギー方程式，運動量保存則，連続の式について理解できる 積分方程式について理解できる 温度分布，速度分布を求めることができる 局所ヌセルト数，平均ヌセルト数について理解できる ヌセルトの凝縮理論について理解できる 滴状凝縮について理解できる 沸騰曲線，沸騰熱伝達について理解できる		
		6週	分子動力学法I 分子動力学法II		分子動力学法の原理について理解できる 一次元以上の分子動力学法のプログラムを構築できる		
		7週	気体分子運動論の基礎 気液相変化伝熱に関する最新のトピック		温度，圧力などについてミクロな観点から説明できる マクスウェル分布について理解できる 気液界面輸送現象に対する昨今の研究内容について理解できる		
		8週	期末試験 期末試験解説		期末試験を行い、これまでの内容を理解する 試験問題の解説により、理解を深める		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		試験	レポート	合計	
総合評価割合		80	20	100	
基礎的能力		40	20	60	
専門的能力		40	0	40	
分野横断的能力		0	0	0	

	学期末試験	レポート	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	35	15	0	0	0	0	50
専門的能力	35	15	0	0	0	0	50
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	半導体電子物性	
科目基礎情報							
科目番号	63025			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期	1st-Q			週時間数	4		
教科書/教材	「電子デバイス工学」 古川静二郎 他著 (森北出版)						
担当教員	碓 智徳						
到達目標							
電子物性の基礎を学び、半導体や半導体デバイスの基礎からその応用的知識を習得することを目標とする。特に半導体デバイス内部におけるキャリアの運動を理解し、それによって生じる効果や現象について学ぶ。また、電界効果トランジスタ(FET)や集積回路(IC)等の各素子についての動作原理や製作技術についても理解する。 ①バイポーラトランジスタについて、動作原理とその特性を説明できる。 ②FETについて、動作原理とその特性を説明できる。 ③ICについて、動作原理とその特性を説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安(不可)			
評価項目1	現在のバイポーラトランジスタの構造や特徴或いは使用用途について、説明できる。	バイポーラトランジスタについて、特性を説明できる。	バイポーラトランジスタについて、動作原理を説明できる。	バイポーラトランジスタについて、説明できない。			
評価項目2	現在のFETの構造や特徴或いは使用用途について、説明できる。	FETの特性を説明できる。	FETの種類とその動作原理を説明できる。	電界効果トランジスタ(FET)について、説明できない。			
評価項目3	現在のICの構造や特徴或いは使用用途について、説明できる。	ICの構造や製作プロセスの一部を説明できる。	ICの種類とその特徴を説明できる。	集積回路(IC)について、説明できない。			
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本科で学んだ物理や化学或いは電子物性を基として、キャリアの生成機構や動作からそのデバイス技術への応用に至るまでの知識を修得することを目的としている。						
授業の進め方・方法	この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習としてレポートを実施します。受講前には基礎的な量子力学的概念を学習しておき、理解できていることが望ましい。レポート課題の内容について、プレゼンテーションしてもらうので自力で調べて内容を理解しておく必要がある。また、レポート課題の内容に沿った自信の専門性との関連についても発表してもらう。レポート提出については、期限を厳守すること。						
注意点	各授業内容について、A4用紙1枚にまとめることと、輪番制でプレゼンテーション資料を作成して、発表してもらいます。公聴者も責任を持って質問するようにして欲しいです。みんなで活発な議論のある授業にしましょう。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	1回：電子物性の基礎① ・光の粒子性と波動性 2回：電子物性の基礎② ・電子の粒子性と波動性	1回：光の粒子性と波動性について説明できる。 2回：電子の粒子性と波動性について説明できる。			
		2週	3回：電子物性の基礎③ ・電子状態、・結晶構造 4回：電子物性の基礎④ ・エネルギー帯 (半導体・金属・絶縁体)	3回：結合による結晶構造とその電子状態について説明できる。 4回：各種材料におけるエネルギー帯について説明できる。			
		3週	5回：半導体の種類とキャリア密度 ・真性・p型・n型 6回：半導体の電気伝導 ・ドリフト、・拡散	5回：各種半導体の種類とキャリア密度について説明できる。 6回：ドリフト電流と拡散電流について説明できる。			
		4週	7回：pn接合ダイオード 8回：バイポーラトランジスタ① ・動作原理、・増幅作用	7回：pn接合の原理とダイオード特性について説明できる。 8回：バイポーラトランジスタの動作原理について説明できる。			
		5週	9回：バイポーラトランジスタ② ・接地形式、・TTL 10回：金属-半導体接触 ・ショットキー、・オーミック	9回：バイポーラトランジスタの接地形式による電流増幅利得について説明できる。 10回：ショットキー接触及びオーミック接触について説明できる。			
		6週	11回：MES FET ・動作原理、・特性 12回：MIS/MOS FET ・エンハンスメント形、・デプレッション形	11回：電界効果トランジスタ(FET)の動作原理とその特性について説明できる。 12回：エンハンスメント形及びデプレッション形について説明できる。			
		7週	13回：集積回路(IC)① ・回路構成法、・バイポーラIC、・MOS IC 14回：集積回路(IC)② ・メモリ	13回：集積回路の回路構成について説明できる。 14回：RAMやROMについて説明できる。			
		8週	15回：定期試験 16回：答案返却・解答解説、学修事項のまとめ	15回：学修内容が身についている。 16回：学修事項のまとめを行う。			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

評価割合				
	試験	発表	レポート	合計
総合評価割合	20	20	60	100
知識の基本的な理解【知識・記憶、理解レベル】	10	0	20	30
思考・推論・創造性【適用、分析レベル】	10	0	40	50
汎用的技能【情報収集・活用・発信力】	0	20	0	20
態度・志向性(人間力)【自己管理力】	0	0	0	0

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	パワーエレクトロニクス特論	
科目基礎情報							
科目番号	63026		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	生産システム工学専攻		対象学年		専2		
開設期	2nd-Q		週時間数		4		
教科書/教材	教材:「パワーエレクトロニクス」 堀孝正 編著 (オーム社)						
担当教員	池田 風花						
到達目標							
科目の到達目標は、以下の3項目である。 ①パワー半導体デバイス、並びに電力変換の基本回路と動作原理を計算式により説明できる ②PWM制御の基本原理とインバータ回路を説明できる ③チョッパ制御の基本原理とチョッパ回路を説明できる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)			
評価項目1	4つの方式の電力変換の基本回路を示し、パワー半導体デバイスの動作特性と計算式により動作原理を説明できる	示された電力変換の基本回路について、パワー半導体デバイスの動作特性と計算式により動作原理を説明できる	示された電力変換の基本回路とパワー半導体デバイスの動作特性について、計算式により動作原理を説明できる	示された電力変換の基本回路とパワー半導体デバイスの動作特性について、計算式により動作原理を説明できない			
評価項目2	PWM制御の基本原理を理解し、インバータ回路と原理を説明できる	PWM制御の基本原理を理解し、示されたインバータ回路と原理を説明できる	示されたPWM制御の基本原理により、インバータ回路と原理を説明できる	示されたPWM制御の基本原理により、インバータ回路と原理を説明できない			
評価項目3	チョッパ制御の基本原理を理解し、チョッパ回路と原理を説明できる	チョッパ制御の基本原理を理解し、示されたチョッパ回路と原理を説明できる	示されたチョッパ制御の基本原理により、チョッパ回路と原理を説明できる	示されたチョッパ制御の基本原理により、チョッパ回路と原理を説明できない			
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	電力工学と電子工学、制御工学の融合技術であるパワーエレクトロニクスを産業応用の面から捉えて学習する。電動機の駆動制御、及び発電・送電の電力制御の応用技術の面から、産業応用分野のパワーエレクトロニクスの変遷と要素技術について理解し説明できることを目指す。						
授業の進め方・方法	授業では、先ずパワーエレクトロニクスの電力変換について、デバイスや基本回路などの要素技術を学習する。次に、産業応用技術の代表的な電動機の駆動制御と電力系統の電力制御に関する基礎理論、並びに各電力変換回路と動作原理について学習する。毎回の授業で、パワー半導体デバイスを用いた電力変換の基本回路に関する例題を出題するので、自学自習ではこれを主に復習し理解を深めること。						
注意点	パワーエレクトロニクスは、電気機器と電子回路の他、送配電工学、制御工学、電気回路などの応用技術分野であり、産業応用の核となる技術と言える。最近の技術動向を交えて説明するので、産業応用から見たパワーエレクトロニクスの意義を学んでもらいたい。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	2ndQ	9週	(1) パワーエレクトロニクスと産業応用 / (2) パワー半導体デバイスの種類と基本特性①		(1) パワー半導体デバイスと電気機器、また電気材料に関する産業応用技術の変遷からパワーエレクトロニクスの知識を得る / (2) 電力変換の4つの方式の基本回路とその動作を説明できる		
		10週	(3) パワー半導体デバイスの種類と基本特性① / (4) パワー半導体デバイスの種類と基本特性②		パワー半導体デバイスの種類と動作特性を説明できる		
		11週	(5) 整流回路 / (6) インバータ①		(5) ダイオード並びにサイリスタを用いた単相整流回路とその動作原理を説明できる / (6) インバータの基本回路について動作原理を説明できる。		
		12週	(7) PWMによる波形制御 / (8) 中間まとめ		(7) インバータの制御、PWM制御を説明できる / (8) 中間まとめ課題を課す		
		13週	(9) 降圧チョッパ回路 / (10) 昇圧チョッパ回路		(9) 降圧チョッパ回路の動作原理を説明できる / (10) 昇圧チョッパ回路の動作原理を説明できる		
		14週	(11) dc-dcコンバータ / (12) dq座標変換		(11) dc-dcコンバータについて説明できる / (12) dq座標変換を説明できる		
		15週	(13) 電力系統における有効電力・無効電力の影響 (14) まとめ		(13) 送配電の電気回路において、有効電力および無効電力の影響を説明できる / (14) これまでの授業内容が理解できる		
		16週	(15) 期末試験 / (16) 期末試験の解説		(15) 期末試験を実施する / (16) 試験問題の解説を通じて理解度を深める		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	65	0	0	0	0	35	100
知識の基本的な理解	30	0	0	0	0	20	50
思考・推論・創造への適用力	30	0	0	0	0	10	40

汎用的技能	0	0	0	0	0	0	0
態度・志向性(人間力)	5	0	0	0	0	5	10
総合的な学習経験と創造的思考力	0	0	0	0	0	0	0

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	電力工学	
科目基礎情報							
科目番号		63027		科目区分		専門 / 選択	
授業形態		講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科		生産システム工学専攻		対象学年		専2	
開設期		3rd-Q		週時間数		4	
教科書/教材		「電気エネルギー工学」 八坂保能編著 (森北出版)					
担当教員		吉田 雅史					
到達目標							
電気エネルギーは社会の基盤技術で不可欠なものです。その核心である電力工学は従来の発電電、送配電に加え燃料電池や超電導など関連工学分野を取り込んだ複合工学です。講義では電力エネルギーの生成、活用に加え、先端電力技術の概要の理解を深める。 ①主要発電方式（水力、火力、原子力）の原理を理解し、発電設備の構成について説明できる。 ②再生可能エネルギー及び次世代エネルギーの原理と課題について説明できる。 ③電力システムの構成及び電力の質の確保の意義とその方法について説明できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1		良好な到達水準に加え、主要発電方式（水力、火力、原子力）におけるエネルギーの有効利用法について検討できる。	最低限の到達水準に加え、主要発電方式（水力、火力、原子力）の発電電力量、熱効率を計算で導出できる。	主要発電方式（水力、火力、原子力）の発電原理と発電設備の構成について説明できる。	主要発電方式（水力、火力、原子力）の発電原理と発電設備の構成について説明できない。		
評価項目2		良好な到達水準に加え、再生可能エネルギー及び次世代エネルギーの技術的課題について検討できる。	最低限の到達水準に加え、再生可能エネルギー及び次世代エネルギーの現状及び経済性について説明できる。	再生可能エネルギー及び次世代エネルギーの特徴と原理について説明できる。	再生可能エネルギー及び次世代エネルギーの特徴と原理について説明できない。		
評価項目3		良好な到達水準に加え、電力輸送において発生する高調波障害の原理及び対策法について検討できる。	最低限の到達水準に加え、電力品質の定義及びその維持に必要な手段について説明できる。	電力システム（変電、送配電）の原理及び構成機器について説明できる。	電力システム（変電、送配電）の原理及び構成機器について説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		※実務との関係 この科目は送配電設備や発電設備の原理や構造、実務上で重要となる事項について講義形式で授業を行うものである。 。経済活動を行ううえでエネルギーの発生・輸送技術は、経済活動の根幹に関わる重要な要素です。本講義を通じて電力の発生・輸送の仕組みを学ぶとともに、現在の電力システムに関わる制度や経済性について学んでいく。					
授業の進め方・方法		講義中心に進めていく。必要に応じて課題やレポートを課す。この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習としてレポートを実施します。					
注意点		発電電から送配電、新エネルギーまで広範囲な分野のポイントを扱うので、必ず予習復習をすること。既存のエネルギー発生法も再生可能エネルギー、そして電力輸送、貯蔵技術はいずれも利点と課題を秘めています。この課題に対してどのように解決するか、今後の電力技術はどうあるべきかについても自分なりの意見を考えながら講義を受けて下さい。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	電気エネルギーの基礎 水力発電		電力工学学習の狙いと、電気エネルギーの発生と利用について説明する。 水力発電の原理について理解し、水力発電の主要設備を説明できる。		
		2週	火力発電 原子力発電		火力発電の原理について理解し、火力発電主要設備を説明できる。 原子力発電の原理について理解し、原子力発電主要設備を説明できる。		
		3週	再生可能エネルギーの利用 次世代発電方式		再生可能エネルギーの特徴とエネルギー利用の仕組みについて説明できる。 核融合技術の原理について理解し、その仕組みと現状の課題について説明できる。		
		4週	エネルギー貯蔵技術 三相交流電力		二次電池やその他のエネルギー貯蔵技術の種類及び蓄電の仕組みについて説明できる。 電力輸送における三相交流電力の仕組み及び重要性を説明できる。		
		5週	電力システムの構成 送変電機器		電力システムの構成およびその構成要素について説明できる。交流および直流送配電方式について、それぞれの特徴について説明できる。 送電線路および送変電機器の構成と機能について説明できる。		
		6週	電力系統の故障(1) 電力系統の故障(2)		電力系統の故障における影響を説明でき、故障時に発生する三相短絡電流及び1線地絡電流を計算で導出できる。 対象座標法を用いて非平衡故障時の地絡電流や健全相の電位を導出できる。		

		7週	電力システムの保護 電力品質と電力システムの経済的運用	送電線の中性点接地の意義を理解し、各種接地方式の特徴について説明できる。また送電線で生じる誘導現象について対策方法を説明できる。 電力品質の定義およびその維持に必要な手段について知っている。電力システムの経済運用について説明できる。
		8週	期末試験 試験解答及びまとめ	試験を実施する。 試験の解答を行い、学習事項全体のまとめを行う。授業アンケートを行う。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	60	0	0	0	0	40	100
基礎的能力	20	0	0	0	0	0	20
専門的能力	40	0	0	0	0	40	80
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	光物性基礎論	
科目基礎情報							
科目番号	63028			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期	2nd-Q			週時間数	4		
教科書/教材	「光エレクトロニクスの基礎」 宮尾亘・平田 仁 著 [日本理工出版会]						
担当教員	成島 和男						
到達目標							
1) 光の波動性と粒子性について理解し、物質と光の相互作用を説明できる。 2) E x c e lを用いたシミュレーションを用いることにより、シミュレーションの原理を理解するとともに、項目1) について体感する。 3) 光電素子の動作原理や、光を利用した工学応用を幅広く説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安(不可)			
評価項目1	光の波動性と粒子性について本質を突いた理解でき、物質と光の相互作用を明確に要領よく説明できる。	光の波動性と粒子性について理解し、物質と光の相互作用を説明できる。	光の波動性と粒子性について理解し、物質と光の相互作用を、教科書や授業で使ったプリントを基にして、説明できる。	光の波動性と粒子性について理解できない。			
評価項目2	E x c e lを用いたシミュレーションを用いることにより、シミュレーションの原理を理解するとともに、簡単なプログラムが組める。さらに物質と光の相互作用について明瞭に体感できる。	E x c e lを用いたシミュレーションを用いることにより、シミュレーションの原理を理解するとともに、物質と光の相互作用について体感できる。	E x c e lを用いたシミュレーションを用いることにより、シミュレーションの原理を理解し始め、さらに、物質と光の相互作用について体感し始める。	シミュレーションの原理が理解できない。			
評価項目3	光電素子の動作原理を明瞭に理解し、説明することができる。さらに、光を利用した工学応用を幅広く説明できる。	光電素子の動作原理や、光を利用した工学応用を説明できる。	光電素子の動作原理や、光を利用した工学応用を、教科書や授業で使ったプリントを基にして、説明できる。	光電素子の動作原理や、光を利用した工学応用を説明できない。			
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	講義と共にE x c e l による実習も行う。 ※実務との関係 この科目は、フォートランによる分子動力学法ソフトの開発を担当した教員が、その経験を活かし、光と分子の相互作用を題材とした分子シミュレーションの講義・実習を行うものである。加えて、企業で塗布型有機無機ハイブリッド太陽電池の開発及び試作業務も担当した教員がその経験を活かし、太陽電池などのエレクトロニクス素子の講義も行う。						
授業の進め方・方法	本講義は、まず、物質と光の相互作用について、講義を行う。そのあと、Excelを用いたごく簡単なシミュレーションを用いて、物質と光の相互作用を体感してもらうと同時に、最近、急速に発達してきたコンピュータシミュレーションについての理解を深める。さらにエレクトロニクス素子についての講義、といった幅広い内容を学ぶ。学生諸氏は、本講義の基本的な内容もちろんだが、学問、技術は、各分野が相互に関係していることも含めて学んでもらいたい。						
注意点	教科書は、主に後半に用いる。必ず、教科書は、購入すること。教科書なしで、講義を受けることは、学生としてはありえず、論外である。専攻科で勉学を志すからには、一教科数千円程度の教科書代は必須である。本は一生の財産であることに気付いてほしい。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	2ndQ	9週	概要説明／マクスウェルの方程式と電磁波①	本講義の概要を説明する。/電磁波の解析の基礎となるマクスウェルの方程式を説明できる。			
		10週	マクスウェルの方程式と電磁波②／光の二重性	マクスウェルの方程式から、電磁波の伝搬について、直観的、本質的な理解ができる。／光の粒子性の証拠となる光電効果やコンプトン効果について、説明できる。さらに光とエネルギーの関係及び物質における光の吸収と放出と物質とエネルギーの等価性について説明できる。光の波動性と粒子性について理解できる。			
		11週	ExcelによるMD計算①②	光子と粒子からなる2分子系における、コンプトン効果について、Excelを用いたシミュレーションを実施できる。／1分子オリゴマー系において、分子動力学法（MD）によるシミュレーションを、Excelを用いて実施できる。			
		12週	ExcelによるMD計算③／ExcelによるMD計算のまとめ	1分子オリゴマー系において、分子動力学法光子とオリゴマーからなる系における、コンプトン効果について、Excelを用いたシミュレーションを実施でき、光子と物質の相互作用を体感できる。／Excelを用いたシミュレーションを総括することにより、シミュレーションの意義を納得でき、シミュレーション全般について理解できる。			
		13週	光エレクトロニクス素子①②	電磁波を用いた赤外線センサの動作原理や光ファイバの動作原理について説明できる。／蛍光灯やプラズマディスプレイ、電子ビームを用いた発光素子（CRT）の動作原理について説明できる。。			

		14週	光エレクトロニクス素子③④	半導体の本質について理解でき、pn接合のエネルギー準位について、その物理的背景を踏まえて説明できる。次いで、発光ダイオードの動作原理について説明できる。／半導体受光素子の例として、Si系の太陽電池について構造と動作原理を説明できる。
		15週	光エレクトロニクス素子⑤⑥	光の自然放出と誘導放出について理解でき、光の増幅や、レーザ発振の原理について説明できる。／Si系以外の太陽電池について構造と動作原理を理解できる。
		16週	まとめ/期末試験	授業のまとめを行う/期末試験を行う。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	50	0	0	0	0	50	100
知識の基本的な理解	30	0	0	0	0	10	40
思考・推論・創造への	20	0	0	0	0	40	60
	0	0	0	0	0	0	0

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	システム工学	
科目基礎情報							
科目番号	63029			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期	2nd-Q			週時間数	4		
教科書/教材	「システム制御理論入門」 小郷 寛、美多 勉 共著 (実教出版)						
担当教員	長峯 祐子						
到達目標							
①様々なシステムの状態方程式を記述することができる。 ②ベクトルの線形独立性和行列のランク、それらと代数方程式の解との関係、及び、固有値・固有ベクトルによる行列の対角化、ジョルダン形式への変換方法を理解できる。 ③線形時不変システムの状態方程式から導出される状態推移行列を、ラプラス変換を使用する方法、及び、行列を対角化もしくはジョルダン形式化することにより解く方法を、使用して解くことができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1		種々のシステムの状態方程式を記述することができる。	2つのシステムの状態方程式を記述することができる。	1つのシステムの状態方程式を記述することができる。	システムの状態方程式を記述することができない。		
評価項目2		ベクトルの線形独立性和行列のランク、及び、それらと代数方程式の解との関係、固有値・固有ベクトルによる行列の対角化、ジョルダン形式への変換方法を理解できる。	ベクトルの線形独立性和行列のランク、及び、それらと代数方程式の解との関係、固有値・固有ベクトルによる行列の対角化を理解できる。	ベクトルの線形独立性和行列のランク、及び、それらと代数方程式の解との関係を理解できる。	ベクトルの線形独立性和行列のランク、及び、それらと代数方程式の解との関係を理解できない。		
評価項目3		線形時不変システムの状態方程式から導出される状態推移行列を、ラプラス変換を使用する方法や、行列を対角化もしくはジョルダン形式化することにより解く方法を使用して解くことができる。	線形時不変システムの状態方程式から導出される状態推移行列を、ラプラス変換を使用する方法や、行列を対角化することにより解く方法を使用して解くことができる。	線形時不変システムの状態方程式から導出される状態推移行列を、ラプラス変換を使用して解くことができる。	線形時不変システムの状態方程式を、状態推移行列を使用して解くことができない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	1つの線形時不変システム内の複数の変数の微分方程式を、ベクトル、行列を用いた1つの微分方程式（状態方程式）として書き表し、その微分方程式を解くことで、システムの各種変数の時間変化を算出することができる。						
授業の進め方・方法	本科目では、制御工学、微分方程式、線形代数の基礎知識が必要です。そのため、これら科目の基礎知識が不十分な部分については、予習・復習に際して再度しっかりと学習することが望まれます。 この科目は学修単位科目のため、事前・事後学修としてレポートを実施します。						
注意点	これまでは、1つの微分方程式をラプラス変換することで微分方程式を解く方法を学習してきましたが、この科目では、複数の微分方程式から、ベクトル変数の時間1階微分方程式（状態方程式）を構築し、行列計算により解を導きます。その際、行列のラプラス変換、対角化、行列ランクの計算を通した、ジョルダン形式への変換を行います。ラプラス変換、行列の基礎を踏まえて、学習していきましょう。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	2ndQ	9週	動的システムと静的システム 電気システムと状態方程式 機械システムと状態方程式 電気－機械システム（直流モータ）と状態方程式		動的システムを表現する状態方程式の一般的な記述法を理解できる。 電気システムの状態方程式を例題を通して理解する。 機械システム及び、電気－機械システムの状態方程式を例題を通して理解する。		
		10週	ブロック線図と状態方程式 非線形システムの線形化とタンクシステム		ブロック線図の状態方程式を例題を通して理解する。 非線形システムの線形化をタンクシステムを通して理解する。		
		11週	非線形システムの線形化とタンクシステムの例題 数学的準備 1 ・ベクトルの線形独立性 ・行列のランク		非線形システムの線形化をタンクシステムの例題を通して理解する。 ベクトルの線形独立性和行列のランク、及び、その関係を理解できる。		
		12週	数学的準備 2 ・代数方程式の解 数学的準備 3 ・固有値及び固有ベクトル ・行列のジョルダン形式		ベクトルの代数方程式の解とその存在条件を理解できる。 固有値・固有ベクトルと行列の対角化を理解できる。 行列をジョルダン形式への変換方法を理解できる。		
		13週	数学的準備 4 ・行列のジョルダン形式への変換の例題 線形時不変システムの応答と状態推移行列		例題を通して、行列をジョルダン形式へ変換することができる。 線形時不変システムの解を、状態方程式の状態推移行列を使用して導出できる。		
		14週	線形時不変システムの応答と状態推移行列の例題 1 線形時不変システムの応答と状態推移行列の例題 2		例題の線形時不変システムの解を、状態方程式の状態推移行列を使用して導出できる。		

		15週	種々の応用計算法 線形時不変システムの漸近安定性	線形時不変システムの解の導出方法として、ラプラス変換を使用した方法と計算機を利用した方法を理解できる。 線形時不変システムの漸近安定であるための必要十分条件を理解できる。
		16週	期末試験 期末の答案返却および解答の解説 授業改善アンケートの実施	試験問題の解説を通して、間違った箇所を正しく理解できる。また授業改善アンケートを行う。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	レポート	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	符号理論	
科目基礎情報							
科目番号	63030			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期	3rd-Q			週時間数	4		
教科書/教材	「改訂 マルチメディア時代の情報理論」小川英一 (コロナ社)						
担当教員	田辺 誠						
到達目標							
情報理論および符号理論に関する基礎知識を前提とし、応用例について学ぶ。 ①情報理論の応用例について学ぶ。 ②符号理論の応用例について学ぶ。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)			
情報理論の応用例	標準的な到達レベルに加え、数学モデルを用いて各手法の比較検討ができる。	最低限の到達レベルに加え、定性的な問について数学モデルを用いて答える。	情報理論に関する具体的な計算を行い、解を導くことができる。	具体的な事例について計算をすることができない。			
符号理論の応用例	標準的な到達レベルに加え、数学モデルを用いて各手法の比較検討ができる。	背景となる数学モデルについて理解が出来る。(具体的な計算問題を解くことが出来、定性的な問について数学モデルを用いて答えることが出来る)	符号理論に関する具体的な計算を行い、解を導くことができる。	具体的な事例について計算をすることができない。			
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	本講義は、シャノンの情報量に関する理論を基礎とし、情報理論および符号理論の応用を行う。応用例を理解するためには、情報理論および符号理論の基礎に対する十分な理解が必要である。具体的には、情報源符号化、通信路符号化などの諸概念、ハフマン符号などの情報源符号、パリティ検査符号やハミング符号などの通信路符号などについて修得した上で本講義に臨んで欲しい。						
授業の進め方・方法	講義ではプリントを配布するが、教科書、筆記用具および関数電卓を必ず持参すること。講義資料はオンライン上に前もって掲載する予定である。講義前に閲覧して予習をして臨むこと。						
注意点	スライド資料/事前・事後学習プリントを使用する。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	情報理論・符号理論の基本事項の復習	本講義の到達目標について理解する。			
		2週	データ圧縮：ファックスのデータ圧縮	情報源符号化の応用例として、ファックスのデータ圧縮に用いられるランレングス符号の概念を理解し、MH符号化のアルゴリズムに基づく具体的な符号化および復号ができるようになる。			
		3週	データ圧縮：テキストのデータ圧縮	情報源符号化の応用例として、テキストのデータ圧縮に用いられるユニバーサル符号の概念を理解し、スライド辞書用や動的辞書法のアルゴリズムに基づく具体的な符号化および復号ができるようになる。			
		4週	記憶のある情報源とマルコフ情報源	情報源確率分布が過去の出力に依存する「記憶のある」情報源の概念を理解し、情報源の分類が出来るようになる。記憶のある情報源の一種であるマルコフ情報源の次数を理解し、具体的な情報源について次数を求めることが出来るようになる。			
		5週	マルコフ情報源とエントロピー	マルコフ情報源におけるエントロピーを計算できるようになる。			
		6週	応用例 1：JPEG・MPEGアルゴリズムの紹介	発展的な応用例として、JPEG画像圧縮アルゴリズムへの情報理論・符号理論の応用例を紹介する。			
		7週	発展的応用例	相互情報量のカーナビ目的地推定への応用など、発展的応用例を紹介する。			
		8週	定期試験・試験返却	定期試験を行う。			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験		小テスト	事前・事後学習		合計	
総合評価割合	70		10	20		100	
知識の基本的な理解【知識・記憶、理解レベル】	20		10	10		40	
思考・推論・創造への適用力【適用、分析レベル】	25		0	10		35	
汎用的技能【論理的思考力】	25		0	0		25	

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	知的情報処理	
科目基礎情報							
科目番号	63031			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期	1st-Q			週時間数	4		
教科書/教材	「ニューロ・ファジィ・遺伝的アルゴリズム」萩原 将文著 (産業図書)						
担当教員	久保田 良輔						
到達目標							
(1) ファジィ推論法を理解できる。 (2) ニューロンモデルとその学習則を理解できる。 (3) 最適化問題と進化的計算法を理解できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安 (不可)		
評価項目1		実問題を自ら発見し、その制御器 (推論器) をファジィ推論 (直接) 法に基づいて設計することができる。	与えられた問題に対して、その制御器をファジィ推論 (直接) 法に基づいて設計することができる。	与えられた問題に対して、その入出力に関するファジィ規則を構築することができる。	ファジィ規則が構築できない。または、論理演算ができない。		
評価項目2		与えられた入力に対してニューロンの数理モデルを構築し、その識別関数を数学的に設計し、図示することができる。	与えられた入力に対してニューロンの数理モデルを構築し、その識別関数を図示することができる。	与えられた入力に対してニューロンの数理モデルを構築することができる。	ニューロンの数理モデルを構築することができない。		
評価項目3		様々な問題を最適化問題として定式化し、進化的計算法におけるその解法 (アルゴリズム) を構築することができる。	様々な問題を最適化問題として定式化し、進化的計算法における個体への割り当てができる	1・2個の問題を最適化問題として定式化することができる	最適化問題への定式化ができない		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	第1学期開講 近年、コンピュータの性能が飛躍的に向上したことにより、生体の知的情報処理などを取り入れた人工知能アルゴリズムや機械学習アルゴリズムが様々な分野で活用されています。この講義では、知的情報処理の性質を理解してもらうとともに、人工知能や機械学習のアルゴリズムがどのような製品に応用されてきたのかを学びます。						
授業の進め方・方法	毎回、講義で使用するプリントを配布し、プリントに沿って教科書を参考にしながら授業を進めます。各授業では、講義に加えて演習を行います。また、事前・事後学習や中間・期末のまとめとしてレポートやテストを課します。						
注意点	この講義では、これまでに習得した数学の知識が必要ですので、これらの復習をしておく必要があります。講義ノート (プリント) を毎回配布しますが、教科書はもとより、以前の講義資料を使用することもありますので、ファイリングするなどして、全ての講義ノートを毎回持参して下さい。また、学期内に成績を再評価する場合があります。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	知的情報処理の概要 ファジィ推論		知的情報処理の概要を理解できる。 直接法と高木・菅野のファジィ推論法について理解できる。		
		2週	ファジィ推論		古典制御の概要とその問題点を理解できる。 直接法と高木・菅野のファジィ推論法について理解できる。		
		3週	ファジィ推論		ファジィ制御の概要を理解できる。 ファジィ制御器を設計することができる。		
		4週	ニューロンモデル 中間まとめ		ニューロンの数理モデルを理解できる。 ファジィ推論法を理解できる。		
		5週	答案返却・解答解説 ニューロンの学習		ニューロンモデルの学習則を理解できる。		
		6週	多層パーセプトロン		多層パーセプトロンの数理モデルとその学習則を理解できる。 多層パーセプトロンを用いたパターン識別問題への適用方法を理解できる。		
		7週	進化的計算法 遺伝的アルゴリズム		遺伝的アルゴリズムの概要と遺伝的操作について理解できる。 様々な進化的計算法を理解できる。		
		8週	期末試験 答案返却・解答解説、授業改善アンケートの実施		ニューロンモデルとその学習則を理解できる。 最適化問題と進化的計算法を理解できる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
		期末試験	中間まとめ	レポート	合計		
総合評価割合		30	30	40	100		
知識の基本的な理解		20	20	20	60		

思考・推論・創造への適用力	10	10	20	40
汎用的技能	0	0	0	0
態度・志向性(人間力)	0	0	0	0
総合的な学習経験と創造的思考力	0	0	0	0

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	画像処理	
科目基礎情報							
科目番号	63032			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期	2nd-Q			週時間数	4		
教科書/教材	配布プリント						
担当教員	三谷 芳弘						
到達目標							
画像を理解し、画像処理の基本的なアルゴリズムの考え方を習得する。さらに実際に画像処理を行うことができる。 本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 白黒濃淡画像・カラー画像、諧調数削減・2値化、画像の演算について理解できる。 (2) 画像の濃度補正・幾何学的補正について理解できる。 (3) 画像のフィルタリング・2値画像処理について理解できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安(不可)			
評価項目1	白黒濃淡画像・カラー画像、 諧調数削減・2値化、画 像の演算を説明できる。	白黒濃淡画像、カラー画像 、を説明できる。	カラー画像について説明で きる。	カラー画像の説明ができな い。			
評価項目2	画像の濃度補正・幾何学的 補正、これらの基本アルゴ リズムを説明できる。	画像の濃度補正・幾何学的 補正の効果を説明できる。	画像の補正について説明で きる。	画像の補正の説明ができな い。			
評価項目3	画像のフィルタリング・ 2値画像処理、これらの基 本アルゴリズムを説明でき る。	画像のフィルタリング・ 2値画像処理の効果を説明 できる。	画像のフィルタリング・ 2値画像処理について説明 できる。	画像のフィルタリングの説 明ができない。			
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	画像を理解し、画像処理の基本的なアルゴリズムの考え方を習得する。						
授業の進め方・方法	この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習として小テスト及びレポートを実施する。本講義は情報処理室におい て実施する。情報処理室の利用についてはマナーを守ること。配布プリントに基づいて授業を進める。						
注意点	画像処理に関する小テストとしてプログラム課題を課す。また、画像処理に関する応用のレポートとしてプログラム課 題を課す。提出期限は厳守すること。学期内に成績を再評価する場合がある。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	2ndQ	9週	1回目：画像処理(1)、ガイダンス・概要 2回目：画像処理(2)		・シラバスから学習の意義、授業の進め方、評価方法 を理解できる。カラー画像を理解できる。 ・白黒濃淡画像・画像の統計量を理解できる。		
		10週	3回目：画像処理(3) 4回目：画像処理(4)		・2値化・諧調数削減を理解できる。 ・画像の演算を理解できる。		
		11週	5回目：画像処理(5) 6回目：画像処理(6)		・画像の濃度補正(1)を理解できる。 ・画像の濃度補正(2)を理解できる。		
		12週	7回目：画像処理(7) 8回目：画像処理(8)		・画像の幾何学的補正(1)を理解できる。 ・画像の幾何学的補正(2)を理解できる。		
		13週	9回目：画像処理(9) 10回目：画像処理(10)		・画像のフィルタリング(1)を理解できる。 ・画像のフィルタリング(2)を理解できる。		
		14週	11回目：画像処理(11) 12回目：画像処理(12)		・2値画像処理(1)を理解できる。 ・2値画像処理(2)を理解できる。		
		15週	13回目：画像処理の応用(1) 14回目：画像処理の応用(2)		・与えられた課題に取り組み、レポートとしてまと めることができる。 ・与えられた課題に取り組み、レポートとしてまと めることができる。		
		16週	15回目：定期試験 16回目：試験返却		・ ・試験問題の解説を通じて間違っ た箇所を理解できる 。また、これまでの学習事項の まとめを行う。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	期末試験		レポート		小テスト	合計	
総合評価割合	80		10		10	100	
知識の基本的な理解	40		5		5	50	
思考・推論・創造への適用 力【適用、分析レベル】	20		5		5	30	
汎用的技能【論理的思考力 】	20		0		0	20	
態度・志向性（人間力）	0		0		0	0	
総合的な学習経験と創造的 思考力	0		0		0	0	

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	情報ネットワーク特論		
科目基礎情報								
科目番号	63033			科目区分	専門 / 選択			
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	生産システム工学専攻			対象学年	専2			
開設期	3rd-Q			週時間数	4			
教科書/教材								
担当教員	伊藤 勉							
到達目標								
(1) html、php、データベース、pythonを使ったwebページを作成できる。 (2) SQLインジェクションの危険性と対策を理解できる。								
ルーブリック								
		理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安(不可)			
評価項目1		(1) html、php、データベース、pythonを使ったwebページを作成できる。 (2) SQLインジェクションの危険性と対策を理解できる。	html、phpによるウェブページが作成できる。	html、phpによるプログラムコードが理解できる。	html、phpによるプログラムコードが理解できない。			
評価項目2		phpからデータベースやPythonへの処理伝達を利用したウェブページをデザインできる。	phpからデータベースやPythonへの処理伝達の実装できる。	phpからデータベースやPythonへの処理伝達が理解できる。	phpからデータベースやPythonへの処理伝達が理解できない。			
評価項目3		SQLインジェクションに関連した脅威への対策を提案できる。	SQLインジェクションの対策を理解できる。	SQLインジェクションのメカニズムが理解できる。	SQLインジェクションのメカニズムが理解できない。			
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	今日、私たちの身の回りでは様々な電子サービスが稼働しており、それらのサービスを実装している技術の基礎である、HTML、PHPについて、実践的に学ぶ。実践的なウェブページの構築を目指して、phpからのデータベースやpythonへの伝達処理についても実践的に学び、ウェブサービスの基礎を広く理解する。後半では、データベースやpythonとの伝達に生じるセキュリティリスクについても触れる。							
授業の進め方・方法	スライドを多用し、授業計画に列挙した個々の技術を説明する。また、個々の技術に対応したレポート課題を課す。ネットワーク技術を含む情報技術分野はアップデートが頻繁であり、10年前の常識があつという間に通用しなくなる。講義中に最新情報を提供できるよう努める なお、この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習としてレポートを実施します。							
注意点	提供できる最新の知識を講義に盛り込むために、内容が変化することがあります。							
授業の属性・履修上の区分								
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
		週	授業内容		週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	HTMLとphpの概要		・ HTMLとphpの概要を理解する			
		2週	HTMLによるウェブページ作成		HTMLによるウェブページを実装するための、基礎的な文法について理解する。			
		3週	HTMLとphpによるウェブページ作成		phpを用いた動的なウェブページの作成に必要な、phpの文法を理解する			
		4週	phpとデータベースとの連携		phpとデータベースの接続方法について学び、phpからデータベースの情報を活用できるようになる。			
		5週	phpとpythonプログラムの連携		ブラウザからの入力を、pythonで処理する方法について学ぶ			
		6週	SQLインジェクションのリスクと対策		SQLインジェクションのリスクと、ブラウザ入力と権限設定の重要性について理解する。			
		7週	ウェブページの実装		課題を満たすウェブページの実装を目指す。			
		8週	ウェブページの実装		課題を満たすウェブページの実装を目指す。			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	レポート	合計
総合評価割合	0	50	30	0	0	0	20	100
基礎的能力	0	10	0	0	0	0	20	30
専門的能力	0	30	30	0	0	0	0	60
分野横断的能力	0	10	0	0	0	0	0	10

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	インターンシップ	
科目基礎情報							
科目番号	63034			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実習			単位の種別と単位数	学修単位: 3		
開設学科	生産システム工学専攻			対象学年	専2		
開設期	通年			週時間数	1.5		
教科書/教材							
担当教員	岡本 昌幸,専攻科各教員						
到達目標							
(1)学位専攻区分に関連付けて、実習先における実務を説明できる。 (2)実習先における実務に対し、専門知識・技術を活かした取り組みを行える。 (3)活動を通して、新たな専門知識・技術を獲得できる。 (4)自己のキャリアデザインについて考えることができる。 (5)社会が求める技術者・研究者の資質を説明できる							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安 (優)	標準的な到達レベルの目安 (良)	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1		学位専攻区分における具体的な専門科目、関連科目、専攻外科目と関連付けて、実習先における実務を説明できる。	学位専攻区分における具体的な専門科目と関連付けて、実習先における実務を説明できる。	学位専攻区分に関連付けて、実習先における実務を説明できる。	学位専攻区分に関連付けて、実習先における実務を説明できない。		
評価項目2		実習先における実務に対して、専門知識・技術を活かし、自己の意見を積極的に取り入れた取り組みを行える。	実習先における実務に対して、専門知識・技術を活かし、計画的な取り組みを行える。	実習先における実務に対し、専門知識・技術を活かした取り組みを行える。	実習先における実務に対し、専門知識・技術を活かした取り組みを行うことができない。		
評価項目3		活動を通して、新たな専門知識・技術を獲得し、その専門領域について、既習の内容と関連付けて説明できる。	活動を通して、新たな専門知識・技術を獲得し、その専門領域について説明できる。	活動を通して、新たな専門知識・技術を獲得できる	活動を通して、新たな専門知識・技術を獲得できない。		
評価項目4		自己のキャリアデザインについて考え、実現するための計画を立てることができる。	自己のキャリアデザインについて考えることができる。	経験した実務内容に対する自己の適性について考えることができる。	経験した実務内容に対する自己の適性について考えることができない。		
評価項目5		技術者・研究者にとって、どのような資質が必要か、なぜ必要か、具体的に説明できる。	技術者・研究者にとって、どのような資質が必要か、具体的な内容を説明できる。	技術者・研究者にとって、どのような資質が必要か説明できる。	技術者・研究者にとって、どのような資質が必要か説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	企業、大学等における長期実習を通して、これまでに修得してきた知識や技術、これから学修する事項が実践的にどのように活用できるのか、学修内容と実務問題との繋がりを理解するとともに、現場における独創的な技術やノウハウを吸収し、自己の専門領域の深化、高度化を図ることを目的とする。また、企画提案や課題解決の実務を経験することによって、課題発見・探求能力、実行力といった技術者として必要な資質を高めることを目的とする。原則として夏季休業期間中に135時間以上の実習を行うものとする。実習内容は、それぞれの学位専攻区分（機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、社会システム工学）に準ずるものとする。実習内容を報告書としてまとめ、その内容を発表する。 単位の数え方（3～6単位） 135～179時間：3単位， 180～224時間：4単位， 225～269時間：5単位， 270～314時間：6単位						
授業の進め方・方法	・原則として実習期間は1年次の夏季休業期間中とし、実習先は1社（機関）とする。 ・実習テーマおよび実習期間は実習先から提示されたものを基本とし、指導教員と実習先とで協議の上決定する。実習内容は、学位専攻区分（機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、社会システム工学）に準ずるものとする。 ・事前指導として、社会人として守らなければならない基本的なルールの徹底と心構えについて指導を行う。 ・事前準備として、実習内容と専門性の関連について整理する（事前報告書の作成）。 ・指導教員は、必要に応じ状況の把握と指導を行うものとする。 ・実習中に日々の実習内容をインターンシップ実習日誌に記録し、実習先の点検を受けた後、本校へ提出する。 ・実習終了時にインターンシップ報告書を作成し、実習先と本校へ提出する。 ・実習終了後、インターンシップ報告会において実習内容を発表する。 ・実習期間中に知り得た企業秘密等については、絶対他に漏えいしないこと。 ・実習は原則として無報酬とする。 ・事後指導として、全員の実習終了後に報告会を開催し、到達目標の達成度について評価する。 ・事後指導として、自己のキャリアデザインについて評価する（事後報告書の作成）。 ・全体を通して、問題点や改善点があれば問題解決のための方策を講じる。						
注意点	インターンシップでは、企業などでの長期にわたる種々の実習を通じ、実務問題の理解と対応能力を身につけることを目的としている。また実習を通して、仕事の進め方、社会人としての接し方を学び、社会が要求し期待する職業人としての技術者像を確立するよう努めること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	インターンシップ（135時間以上）の実施				
		2週	"				
		3週	"				
		4週					
		5週					

		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	1 報告書	2報告会	3事件事後報告書	合計	
総合評価割合	60	35	5	100	
知識の基本的理解	30	15	0	45	
思考・推論・創造への適用力	10	10	0	20	
汎用的技能	10	5	0	15	
態度・志向性（人間力）	10	5	5	20	